

高等尋常中學校師範學校  
特別認可學校其他諸學校

受檢用  
參考書

受驗  
文携  
支那歷史問答

尾關學軒編纂



高等尋常中學校師範學校  
特別認可學校其他諸學校

受檢用  
參考用

中司正朔著  
受檢必携  
日本歷史問答  
郵稅金四錢

中司正朔著  
同化學問答  
郵稅金二錢

尾關學軒著  
同日本地理問答  
郵稅金四錢

尾關學軒著  
同動物學問答  
郵稅金二錢

中司正朔著  
同萬國歷史問答  
郵稅金四錢

中司正朔著  
同植物學問答  
郵稅金四錢

中司正朔著  
同萬國地理問答  
郵稅金四錢

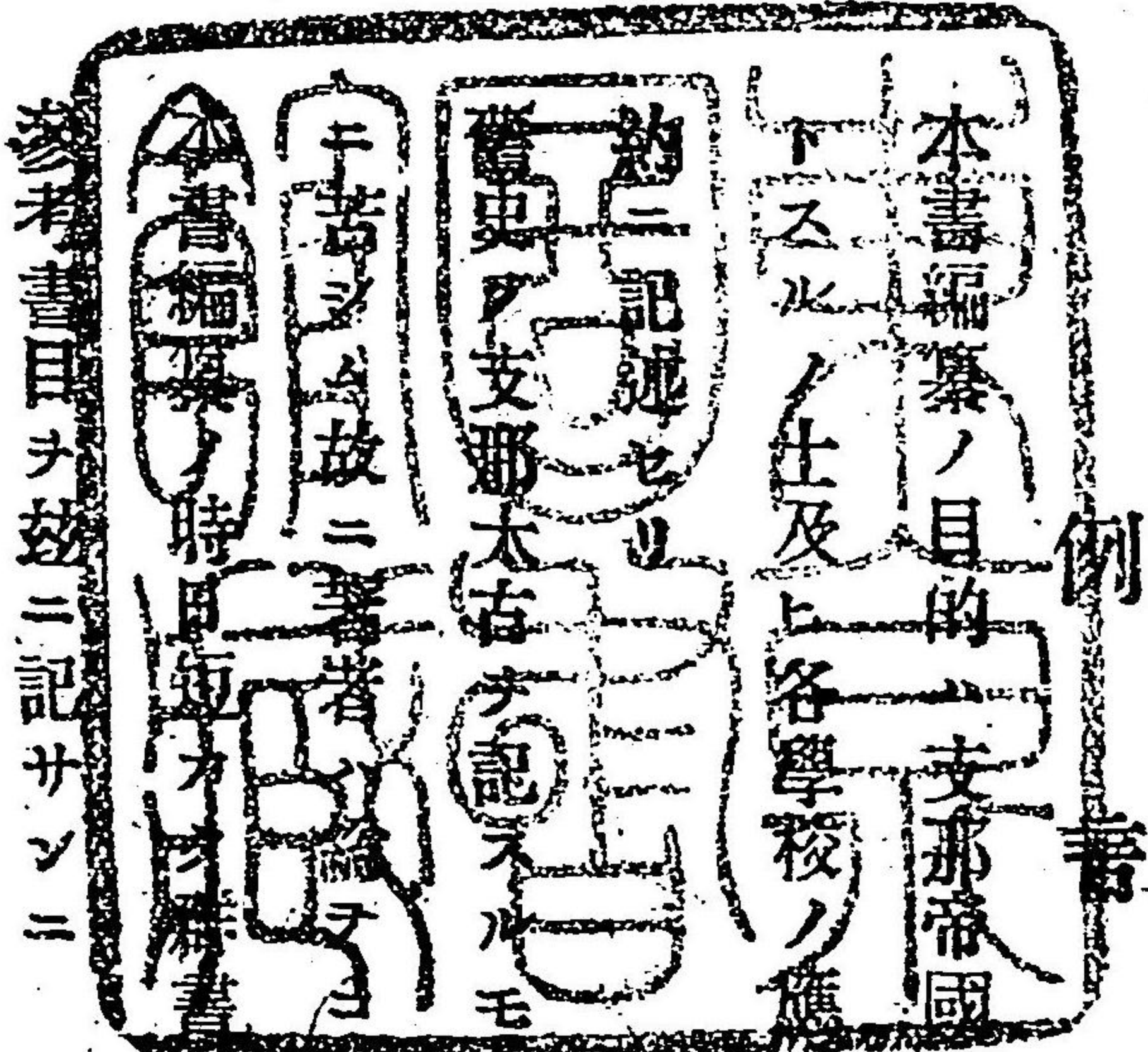
尾關學軒著  
同支那歷史問答  
郵稅金四錢

中司正朔著  
同理學問答  
郵稅金二錢

尾關學軒著  
同支那歷史問答  
郵稅金四錢

本書ハ中司尾關ノ兩氏數年授業セラレシ經驗ニテ編纂セラレ加フルニ諸學校ニ於テ試験アリシ問題ヲ蒐集シ其ノ文章ノ如キハ成ヘク贅言ヲ省キ緊要ナルヲ而カモ綿密ニ記載シアレハ荷モ受檢者タル者一回繙キ給ハ心思腦力ヲ勞セスシテ試験ニ及第セラルベキ未嘗有ノ良書也  
都テ御註文之節ハ代金郵便切手ニテモ不苦候間前金ヲ以御送ヲ乞フ

受檢必携 支那歷史問答



本書編纂ノ目的ハ支那帝國カ如何ナル經歷ヲ以テ今日ノ進歩發達ヲ致セシカヲ知ラスルノ仕及ヒ各學校ノ應試者ノ爲メニ階梯タラシメントスルニアリ故ニ專ラ簡明詳約ニ記述セリ  
舊史ノ支那太古ヲ記スルモノ多クハ荒誕不稽ニシテ眞偽ヲ混合シ和學者或ハ辨別スルニ苦シム故ニ著者ハ其ノ等ノ怪言詭說ヲ刪除シタリ  
本書編纂ノ時日短カシテ著者ハ其ノ等ノ怪言詭說ヲ刪除シタリ  
參考書目ヲ茲ニ記サンニ

十八史略 通鑑要 史記傳抄 春秋左氏傳 元明史略 元明清史略

清佛戰爭記 和漢年肆 釋氏稽古 文獻通考 世說新語 圖繪寶鑑

及ヒ二三歐米人ノ著述ニ係ル書トス

本書編纂ノ際筆寫ノ勞ヲ採リ且ツ細密ナル編纂上ノ注意ヲ池內喜一郎君ヨリ與ヘラレ

例言

一

特50  
927

支那歷史



支那歴史

大ニ便益ヲ得タリ因テ一言ヲ記シ茲ニ其ノ厚誼ヲ謝ス  
本書モシ誤謬并ニ不完全ノ所アテハ讀者願クハ訂正ノ勞ヲ採レ著者亦タ後版ノ時ニ至  
ラハ精細ニ訂正増補ヲナスベシ

於洛陽客舍探古書屋

著者識

支那歴史

受驗必携 支那歴史問答

目次

第一編 総論

- (1) 支那帝國ノ位置及境界ヲ問フ 一 丁
- (2) 支那帝國ノ經緯度ヲ問フ 全
- (3) 支那帝國ノ幅員并ニ面積ヲ問フ 全
- (4) 支那帝國ハ國內ナ幾個ニ大別スルカ其名ヲ問フ 全
- (5) 支那本部ノ位置面積如何且ツ歷史上如何ナル地ソ 二 丁
- (6) 滿洲ノ位置面積ヲ示セ且ツ歷史上如何ナル地ソ 全
- (7) 蒙古ノ位置面積ヲ述ヘヨ且ツ歷史上如何ナル地ソ 全
- (8) 伊犁ノ位置面積ヲ示セ且ツ歷史上如何ナル地ソ 三 丁
- (9) 西藏ノ位置面積ヲ示セ且ツ歷史上如何ナル地ソ 全

目次



支那歴史

(10)	支那帝國ノ八種ヲ問フ	全
(11)	支那種族ニ付テ述ヘヨ	全
(12)	匈奴突厥種族ニ付テ述ヘヨ	四
(13)	韓朝鮮種族ニ付テ述ヘヨ	全
(14)	西藏種族ニ付テ述ヘヨ	全
(15)	高麗種族ニ付テ述ヘヨ	全
(16)	江南諸種族ニ付テ述ヘヨ	全
第二編 各論		
(17)	支那帝國ノ國號ヲ問フ	五
(18)	支那内地人民繁殖セシ時代及其場所ヲ問フ	全
第三編 上古史		
(19)	伏羲氏并ニ神農氏ノ事蹟如何	六
(20)	始メテ兵權ヲ用ヒタルハ誰レソ	全

支那歴史

(21)	黃帝軒轅氏ノ事業如何	全
(22)	文字ハ何帝ノ時ニ誰レノ制セシモノナルカ	全
(23)	黃帝時代ノ文字ノ形狀如何	全
(24)	三皇五帝ヲ記セ	七
(25)	堯帝ノ主ナル事蹟ヲ記セ	全
(26)	舜帝ハ如何ナル人ソ	全
(27)	舜帝ノ制セシ刑政ハ如何	全
(28)	太古支那ニ於ケル天文學ハ如何	八
(29)	太古支那ノ宗教如何	全
(30)	禹ノ最大事業ヲ問フ	全
(31)	少康中興ノ業如何	全
(32)	夏后氏幾年何代ニシテ最後ノ王ハ誰レソ	九
(33)	夏后氏ヲ滅セシハ誰レソ	全

目次



支那歴史

(34)	夏ノ官制ヲ述ヘヨ	全
(35)	夏ノ田制ヲ述ヘヨ	全
(36)	夏ノ税制ヲ述ヘヨ	全
(37)	殷ハ誰レニヨリテ始メテ起リシカ又チ其人ノ性行如何	十丁
(38)	殷王武丁ノ性行如何	全
(39)	殷王紂ノ性行如何	全
(40)	殷幾代何年ニシテ最後ノ王ハ誰レシ	十一丁
(41)	殷ノ官制ヲ示セ	全
(42)	殷ノ田制ヲ示セ	全
(43)	殷ノ税制ヲ示セ	全
(44)	夏及ヒ殷ノ學制如何	全
(45)	夏殷時代ノ音樂如何	全
(46)	周文王ノ事蹟如何	十三丁

支那歴史

(47)	文王呂尙ヲ得タル以所ヲ示セ	全
(48)	周武王紂ヲ討チシ事蹟如何	全
(49)	伯夷叔齊トハ如何ナル人シ	十三丁
(50)	周公ノ事蹟如何	全
(51)	周公諸侯ヲ封スルノ制度如何	十四丁
(52)	周室ノ衰微ヲ來タセシ原因如何	全
(53)	周ノ官制如何	全
(54)	周ノ田制如何	十五丁
(55)	周ノ税制如何	全
(56)	周ノ兵制如何	全
(57)	周ノ刑制如何	全
(58)	周ノ學制如何	全
(59)	周時代ノ繪畫ノ有様如何	十六丁



支那歴史

(72)	鄭子産ノ人トナリテ問フ	全
(71)	吳越ノ争ヒトハ如何	二十丁
(70)	楚莊王ノ事蹟如何	全
(69)	秦ノ穆公トハ如何ナル人ソ	十九丁
(68)	晋文公ノ事蹟如何	全
(67)	管仲ノ事業ヲ問フ	十八丁
(66)	齊ノ桓公ノ事蹟如何	全
(65)	春秋ノ五覇トハ誰々ヲ云フヤ	全
(64)	戰國時代ノ主ナル列國ヲ示セ	全
(63)	春秋戰國ハ周何王ノ時ヨリナルカ	十七丁
(62)	春秋時代ノ主ナル列國ヲ示セ	全
(61)	春秋戰國ノ起因如何	全
(60)	周時代商農ノ狀況如何	全

支那歴史

(73)	魯ニ於ケル孔子ノ政事如何	二十一丁
(74)	春秋戰國時代ノ文學ノ景況如何	全
(75)	支那郡縣制度ノ濫觴ヲ問フ	二十二丁
(76)	戰國ノ四公子トハ誰々ヲ云フヤ	全
第四編 中古史		
(77)	秦ノ孝公ノ事蹟ヲ述ヘヨ	全
(78)	秦孝公ヲ最モ補佐シタルハ誰レゾ	二十三丁
(79)	合從連衡ノ起因如何	全
(80)	合從連衡ノ狀勢如何	全
(81)	秦ノ始メ皇六國ヲ併吞セシ時ノ將軍ハ誰々ナルカ	二十四丁
(82)	李斯ノ略傳ヲ示セ	全
(83)	始皇ノ焚書坑士セシ所以ヲ問フ	二十五丁
(84)	秦末ノ景況如何	二十六丁



支那歴史

(97)	西漢宣帝ノ時ノ良吏ヲ列記セヨ	全
(96)	西漢武帝匈奴ヲ征セシ素志如何	三十一丁
(95)	七國ノ反ノ狀勢如何	全
(94)	西漢ノ景帝ノ時七國ノ反セシ源因ヲ問フ	三十丁
(93)	西漢ノ初メ匈奴ノ入寇セシ顛末ヲ畧述セヨ	全
(92)	項羽ノ末路如何	二十九丁
(91)	沛公ヲ助ケタル有名ノ士三四ヲ示セ	全
(90)	沛公何ヲ以テ天下ノ旣塞兵力ノ強弱戸口ノ多少ヲ知ルヲ得シヤ	全
(89)	西漢ノ高祖ノ入トナリヲ問フ	二十八丁
(88)	秦ノ刑制如何	全
(87)	秦ノ税制如何	全
(86)	秦ノ邦制如何	二十七丁
(85)	秦始皇ノ時毛筆ヲ精製セシモノハ誰レソ	全

支那歴史

(98)	西漢ノ衰頽ヲ來タセシハ何帝ヨリシヲ何ノ爲メカ	全
(99)	東漢ノ光武中興ノ業ヲ問フ	全
(100)	東漢ノ光武ノ治術及ヒ補佐シタルモノヲ擧ケヨ	三十二丁
(101)	東漢光武帝ノ後ヲ繼キシハ誰帝ニシテ治蹟如何	三十三丁
(102)	班超ノ攻伐如何	全
(103)	虞詡ノ雄才ヲ問フ	全
(104)	東漢ノ世宦官權ヲ用ヒ始メシハ如何	三十四丁
(105)	東漢ノ時黨人ノ獄アリ其顛末ヲ畧記セヨ	全
(106)	佛教ノ始メテ支那ニ入リシハ何帝ノ時ナルカ	三十五丁
(107)	樹皮弊布等ヲ以テ紙ヲ製セシハ誰レナルカ	三十六丁
(108)	漢ノ邦制如何	全
(109)	漢ノ税制如何	全
(110)	漢ノ刑政如何	全



支那歴史

(123)(122)(121)(120)(119)(118)(117)(116)(115)(114)(113)(112)(111)

魏ノ武帝トハ如何ナル人ト	三十七丁
魏ノ武帝ヲ最モ補佐シタルハ誰レト	全
吳ノ孫策ノ性行ヲ問フ	全
吳ノ孫權ノ性行如何	三十八丁
赤壁ノ戰ヒヲ略記セヨ	全
東漢獻帝ニ迫リ位ヲ禪ラシメタルハ誰レト	全
三國トハ何國ニシテ各帝ト稱シタルモノヲ列記セヨ	三十九丁
蜀劉備ノ性行ヲ略記セヨ	全
諸葛亮ノ人トナリヲ問フ	全
魏ヲ滅シタルハ誰レト	四十丁
司馬氏ノ魏ヲ滅シタル次第ヲ略記セヨ	全
吳ノ滅亡ヲ記セ	全
五胡華ヲ滅スノ源因ヲ問フ	四十一丁

支那歴史

(136)(135)(134)(133)(132)(131)(130)(129)(128)(127)(126)(125)(124)

晋ノ滅亡如何	全
五胡ノ中最モ有名ナル人二三ヲ舉ゲヨ	全
王敦ノ反ヲ舉ゲヨ	全
桓温ノ人トナリ如何	四十二丁
王猛ノ事蹟如何	全
秦王符賢ノ事蹟ヲ述ヘヨ	全
秦王符堅ノ軍ヲ破リシ晋ノ將ハ誰レト	四十三丁
南北朝トハ何代ヨリ幾年間ヲ云フカ	全
南朝ノ繼續ヲ問フ	全
北朝ノ繼續如何	全
宋ノ高祖武帝ノ人トナリ及ヒ事蹟ヲ略記セヨ	四十四丁
齊大祖高皇帝ノ人トナリヲ問フ	全
梁高祖武皇帝ノ事ヲ問フ	全



支那歴史

(149)(148)(147)(146)(145)(144)(143)(142)(141)(140)(139)(138)(137)

菩薩達磨尊者ハ何帝ノ時支那ニ來リシカ	四十五丁
魏世祖大武帝ノ事蹟如何	全
魏孝文帝ノ事蹟如何	全
魏ノ東西ニ分レタル源因ヲ舉ゲヨ	四十六丁
宇文泰ノ性行ヲ畧記セヨ	全
隋ノ高祖文帝ノ事蹟如何	四十七丁
隋ノ煬帝ノ事蹟如何	四十八丁
隋煬帝高麗征討ノ狀景ヲ概示セヨ	全
南北朝時代ノ邦制如何	全
錢文ニ年號ヲ鑄ルノ嚆矢ヲ問フ	四十九丁
晋朝時代ノ文學ノ狀況ヲ示セ	全
唐ノ高祖神堯帝ノ事業ヲ略述セヨ	全
唐大祖文武帝ノ事蹟如何	五十丁

支那歴史

(162)(161)(160)(159)(158)(157)(156)(155)(154)(153)(152)(151)(150)

唐ノ文武帝ヲ最モ補佐シタル四五ヲ列記セヨ	全
則天武后ノ亂ヲ問フ	全
韋后ノ亂トハ如何	五十一丁
安祿山ノ反ヲ畧示セヨ	五十二丁
唐ノ時河北朝命ニ抗スルニ至リシ源因ヲ問フ	全
唐德宗帝ノ税法改革ノヲヲ略記セヨ	五十三丁
唐憲宗帝ノ時佛骨京師ニ入りシ顛末ヲ問フ	全
唐室宦官ノ專恣及ヒ其結末如何	全
唐末ノ時諸洲ニ割據シタルモノヲ列舉セヨ	五十四丁
回教耶蘇教ノ支那ニ入りシ時代ヲ問フ	五十五丁
唐ノ時官制如何	全
唐朝ノ文學ノ景況ヲ畧記セヨ	全
五代ト稱スル國名及ヒ其祖主ノ名ヲ列示セヨ	五十六丁



支那歴史

(163)(164)(165)(166)(167)(168)(169)(170)(171)(172)(173)(174)(175)

後梁太祖高帝ノ性行ヲ問フ

五十七丁

宋ノ建國ノ始メ首要ナル歴史ヲ畧述セヨ

全

宋太祖ノ時ノ名相ヲ列記セヨ

全

淵ノ漕役ヲ略記セヨ

全

王安石ノ政略ヲ概述セヨ

五十八丁

王安石ノ新法ヲ非難セシモノハ誰々ナルカ

全

宋徽宗帝ノ失政ヲ示セ

五十九丁

宋徽宗帝ノ時キ金人入寇ス其勢力及ヒ景況如何

全

南宋ノ興起セシ所以ヲ問フ

六十丁

南宋高宗帝ノ金ニ對セシ狀況如何

全

秦檜ノ性行如何

全

南宋ノ時編修官胡銓ノ上疏アリ摘記セヨ

六十一丁

秦檜何故ニ岳飛ヲ殺セシカ

六十二丁

支那歴史

(176)(177)(178)(179)(180)(181)(182) (183)(184)(185)(186)(187)

南北宋共ニ休戦セシ理由ヲ問フ

全

南宋滅亡ノ原因ヲ問フ

全

南宋ノ末國ヲ誤リシ權臣ハ誰ノソ且ツ其性行ヲ示セ

全

南宋ハ幾代何年ニシテ亡ヒシカ

六十三丁

宋ノ官制如何

全

宋朝ノ賦役及ヒ租税如何

全

宋朝文學ノ景況ヲ問フ

全

第五編 近世史

元建國ニ於ケル主要ノ歴史ヲ畧述セヨ

六十四丁

元忽必烈ノ人トナリテ問フ

六十五丁

元ノ忽必烈ヲ輔佐シタル名將ヲ列示セヨ

全

元我カ日本帝國ニ入寇シタル顛末ヲ畧記セヨ

全

元再舉日本帝國ヲ讎ガントシ罷メタルハ如何ナル故ソ

全



支那歴史

(200)(199)(198)(197)(196)(195)(194)(193)(192)(191)(190)(189)(188)

- (188) 元ト國號ヲ稱セシハ我日本帝國ノ何年ノ時ナルカ 六十六丁
- (189) 忽必烈ノ時ノ版圖ヲ舉ケヨ 全
- (190) 元朝最モ隆盛ノ時ハ何帝ナルカ 全
- (191) 元末ノ景狀ヲ畧記セヨ 全
- (192) 明之天下ヲ一統シタル顛末ヲ畧示セヨ 六十七丁
- (193) 明太祖朱元璋ノ人トナリ如何 全
- (194) 明ノ片靖難ノ禍アリソノ概勢ヲ問フ 六十六丁
- (195) 明成祖文帝韃靼ヲ新征セシ源因如何 全
- (196) 明成祖文帝ノ外征ヲ畧記セヨ 全
- (197) 明成祖文帝ノ片妖婦ノ乱アリ其情況如何 六十九丁
- (198) 明有脚城ヲ作ル其製如何 全
- (199) 豊臣秀吉朝鮮ヲ伐ツノ片明國ノ關係シタル情況如何 全
- (200) 明ノ片東林黨議トハ何ソソ 七十丁

支那歴史

(213)(212)(211)(210)(209)(208)(207)(206)(205)(204)(203)(202)(201)

- (201) 明ノ片魏忠賢ナルモノアリ其行如何 全
- (202) 明ノ李自成ノ反ヲ問フ 七十一丁
- (203) 清建國以前主要ナル歴史ヲ畧述セヨ 全
- (204) 清ノ片吳三桂ノ反アリ其大畧ヲ述ヘヨ 七十二丁
- (205) 清中國ヲ一定シ著異ナル制度ニ國民ヲ從ハシメントセリ其制度ハ何ソ全
- (206) 清ノ聖祖露西亞ト境界ヲ議定セシ顛末如何 七十三丁
- (207) 安南ニ於テ英國艦ヲ討撃シタル顛末ヲ問フ 全
- (208) 鴉片戰爭ノ概況ヲ問フ 七十四丁
- (209) 長髮賊ノ乱ヲ畧記セヨ 全
- (210) 英佛同盟軍遠征ノ源因ヲ問フ 七十五丁
- (211) 英佛同盟軍遠征結果如何 全
- (212) 日本帝國ノ台灣征討ノ源因及ヒ其概況如何 七十六丁
- (213) 清佛戰爭ノ源因ヲ問フ 全



支那歴史

(214)	清國人通商各國ニ公使及領事ヲ派遣セント建議シタルハ誰レナルカ	七十七丁
(215)	支那近世紀文學及ヒ宗教ノ景況如何	全
(216)	支那現今ノ家屋ノ狀況ヲ問フ	七十八丁
(217)	支那現今ノ租稅制如何	全
(218)	支那現今ノ兵制如何	全

受驗必携 支那歴史問答目次

受檢必携 支那歴史問答

紫冥 尾關學軒 著

第一編

總論

(1) 支那帝國ノ位置及ヒ境界ヲ問フ

支那帝國ハ亞細亞洲ノ東部ニ位シ東ハ東海ヲ隔テ朝鮮及ヒ日本ト相望ミ南ハ支那海ニ瀕シ且ツ安南、暹羅、緬甸ニ界シ西南ハヒマラヤ山ヲ以テ印度ト分界シ東北ハ烏蘇里江、黑龍江北部あるたい山西ニ天山葱嶺アリ總テ露西亞ト接セリ

(2) 支那帝國ノ經緯度ヲ問フ

東經七十三度ヨリ百三十四度ニ至リ北緯十八度二十二分ヨリ五十度十六分ニ盡ク

(3) 支那帝國ノ幅員并ニ面積ヲ問フ

幅員ハ東西千三百餘里南北八百餘里面積ハ凡ソ八十五万三千四百方里トス

支那歴史



(4) 支那帝國ハ國內ヲ幾個ニ大別スルカ其名ヲ問フ

國內ヲ大別シテ五トス其一ヲ支那本部其二ヲ滿洲其三ヲ蒙古其四ヲ伊犁(或ハ支那土耳其斯坦ト云フ)其五ヲ西藏トス

(5) 支那本部ノ位置面積如何且歴史上如何ナル地ゾ

帝國ノ東南部ニ位シ面積凡ソ三十七万四千方里トスコノ地北帯ハ支那人種ノ帝國ヲ創建セシ所ニシテ歴代ノ帝都多クコノ地ニアリ且ツ黄河ノ兩傍ハ古昔中原ノ稱アリテ治世ニハ必ス文化ノ區トナリ亂世ニハ必ズ干戈ノ地タリ

(6) 滿洲ノ位置面積ヲ示セ且ツ歴史上如何ナル地カ

支那本部ノ東北ニ位シ面積六万三千六千方里許ニシテ中古ニ於テハ肅慎、靺鞨、渤海、遼、金等起リ近時清朝亦タコノ地ニ興ル

(7) 蒙古ノ位置面積ヲ記セ且ツ歴史上如何ナル地ゾ

支那本部ノ西北ニアリ面積二十四万八千方里買賣城ハ隊商ノ中心ニシテ西伯利亞トノ商業ハ皆此府ヲ經過スルモノトス元朝ハ實ニコノ地ヨリ起ル

(8) 伊犁ノ位置面積ヲ示セ且ツ歴史上如何ナル地ゾ

支那本部ノ西ニ位シ面積凡ソ六万六千四千方里阿刺比人及ヒ土耳其人ノ支那ト交通セシ地ナリトス

(9) 西藏ノ位置面積ヲ擧ゲヨ且ツ歴史上如何ナル地カ

伊犁ノ南ニアルモノヲ西藏トス凡ソ十万方里ノ面積ヲ有シ中古吐蕃烏斯臧等ノ國トス

(10) 支那帝國ノ人種ヲ問フ

建國以來數千年異姓交々帝トナリ人種ノ混淆セル實ニ甚タシトス境内概テ黄色人種(蒙古人種)ニ屬スルモ尙ホ數多ノ小別アリ其主ナルモノハ(一)支那種族(二)匈奴突厥種族(三)韃靼種族(四)西藏種族(五)高麗種族(六)江南諸種族ノ六トス

(11) 支那人種ニ就テ述ベヨ

コノ種族ハ無雜純粹ノ黄色人種ニシテ初メ北嶺ノ北ニ住シ其後チ江淮ニ衍來シ遂ニ南海ニ及ベリ支那帝國ヲ創建シタルハ實ニコノ種族ニシテ歴代帝王多クコレヨリ出



テ又々幾多ノ人種中最優等ニ位ス

(12) 匈奴突厥種族ニ付テ述ベヨ

コノ種族ハ露西亞國東西比利亞ノ土人ト同種ニシテ其中數多ノ小別アリ周漢ノ時代ヨリ盛大ニ赴キ始メテ漢土ニ入りシテ晋代トス近時清朝ノ祖宗コノ種ヨリ出ツ

(13) 韃靼種族ニ付テ述ヘヨ

コノ種族ハ蒙古種及ヒ回々種ノ二ツニ分レ勇武ニシテ元太祖成吉思可汗ハ前者ヨリ興レリ言語文字他ノ種族ト異ナル

(14) 西藏種族ニ付テ述ヘヨ

コノ種族ハ韃靼印度兩種混淆セルモノニシテ前藏後藏ニ住シ耕織ヲ事トス

(15) 高麗種族ニ付テ述ヘヨ

コノ種族ハ朝鮮人種ニシテ周武王ノ時ニ當リ箕子ヲ封スルニ今ノ朝鮮西北境ヲ以テス是レヨリ朝鮮始メテ開化ノ途ニツク子孫累々九百余年ニ至ル

(16) 江南諸種族ニ付テ述ヘヨ

コノ種族ハ數多ニシテ其主要ナルヲ苗人種、瑤人種、ノミトスコレ太古土人ノ後裔ニシテ最モ劣等ニ位ス當時清朝土司ヲ設ケ自治ニ任セリトカヤ

第二編

各論

(17) 支那帝國ノ國号ヲ問フ

支那帝國ハ屢々政府ノ興亡アルアリテ一定ノ國號ヲシ國人自ラハ中華ト稱スルモ外蕃ニ對スルノ稱ニシテ國號ニアラズ西北亞細亞人ハ「チン」ト云ヒ歐米人ハコレヲ訛轉シテ「チャイナ」ト云ヒ露西亞人ハ「キタイ」ト稱セリ

(18) 支那内地人民繁殖セシ時代及ヒ其場所ヲ問フ

支那内地人民ノ繁殖セシハ何年前ナルカ精細ニ考究スルヲ得スト雖モ思フニ五千年以前ノ事ナランカ而シテ其棲息セシ所ハ黄河楊子江ノ間ナルヘシ

第三編

上古史



(19) 伏羲氏并ニ神農氏ノ事蹟如何

伏羲氏ハ智勇頗ル人ニ超ヘ支那北部ニ於テ始メテ君主ノ位ヲ占メ網罟ヲ造リ佃漁ヲ  
教ヘ牧畜ヲ勵シ嫁娶ヲ定メリ其後ヲ受ケタルヲ神農氏トス耒耜ヲ製シ臼杵ヲ作り  
易ヲ興シ兩氏共ニ蠻民ヲ開導セリ

(20) 始メテ兵權ヲ用ヒタルハ誰レソ

武力ヲ以テ統一ノ企圖ヲナシタルハ黄帝軒轅氏ヲ以テ始メトス

(21) 黄帝軒轅氏ノ事業如何

帝ハ有熊國君少典ノ子ニシテ神農氏ノ末年ニ當リ諸侯伯ノ參觀セサルモノヲ擊ツ諸  
侯伯畏服大ニ武威ヲ輝カス帝地ヲ略スル南楊子江ニ北金山ニ東ハ海ニ西空桐ニ達シ  
天下ヲ平定シ琢鹿ニ都ス

(22) 文字ハ何帝ノ時ニ誰レノ制セシモノナルカ

黄帝軒轅氏ノ時ニ當リテ蒼頡コレヲ製セリ

(23) 黄帝時代ノ文字ノ形狀如何

當時ノ文字ハ形体ヲ模寫シ以テ庶物ヲ表セルノ象形ナリトス

(24) 三皇五帝ヲ記セ

伏羲、神農、黄帝ヲ三皇ト稱シ黄帝ノ後顓頊帝嚳帝舜帝相繼テ立ツ之ヲ五帝ト  
云フ

(25) 堯帝ノ主ナル事蹟ヲ記セ

堯帝ハ嚳帝ノ子ニシテ聰明勇武即位ノ始メ義和兩氏ニ命シ曆法ヲ作ラシメ以テ民ニ  
授ケ又々誹謗ノ木ヲ設ケ諫言ヲ納レ天下ヲ治ムル五十年其間大平無事ニシテ万邦和  
ス

(26) 舜帝ハ如何ナル人ソ

舜帝ハ顓頊六世ノ孫ニシテ鼓腹ノ子ナリ父母ニ事ヘテ克ク孝ニ善ヲ以テ自ラ治ム堯  
帝ニ相トナリ後チ帝位ニ即キ禹、契、皋陶、益、稷等ノ諸賢ヲ舉ケ國政ヲ修メ紀綱大ニ  
張ルコレヨリ天下ノ權漸ク帝王ノ掌中ニ歸セリ

(27) 舜帝ノ制セシ刑政ハ如何



支那歴史

舜帝ハ朝ニ九官ヲ置キ地方ニ十二牧ヲ設ケ以テ内外政治ヲ分掌セシメ又々黑、剗、宮大辟ナル五種ノ刑ヲ用ヒ輕罪ハ鞭朴ヲ以テシ贖刑ナルモノアリテ金ヲ出シ其罪ヲ贖フヲ得

(28) 太古支那ニ於ケル天文學ハ如何

支那ニ於テハ太古ヨリ早ク天文學開ケ堯舜ノ時ニ於テハ義仲、義叔、和仲、和叔ヲ四方ニ遣シ天象ノ測量ニ從事セシメ曆學ハ黃帝ノ時已ニ成リ堯ノ時亦タ之ヲ作レリ當時一年ヲ三百六十六日トシ更ニ閏月ヲ置キ四時ヲ定メリ

(29) 太古支那ノ宗教如何

太古支那ニ於テハ日月星辰山河等ヲ禮拜セシフ一般ノ通觀ナリキカ如シ

(30) 禹ノ最大事業ヲ問フ

夏后氏禹ハ鯀ノ子ナリ堯帝ノ時洪水天下ニ汎濫ス鯀之ヲ湮キ九載績アラズ舜帝禹ヲ舉ケ代ラシム禹堅忍不拔勞身焦思シ外ニ居ルヲ十三年九洲ヲ開キ九道ヲ通シ九澤ニ陂シ九山ヲ度リ遂ニ治功ヲ立ツ舜嘉シテ以テ政ヲ攝セシメ舜崩シテ天子トナリ仁恕

能ク天下ノ民ヲ勞ス其德ニ懷カサルモノナシ

(31) 小康中興ノ業如何

禹帝ノ後ヲ啓立ツ崩スルニ及ヒ子ノ大康即位ス盤遊シテ十旬返ラス有窮ノ后羿其弟仲康ヲ立テ政ヲ專ラニシ仲康崩シテ子ノ相立ツ羿コレヲ逐フテ自立ス嬖臣寒浞羿ヲ殺シ自~~立~~ス相帝ノ子ニ少康アリ田一成ト衆一旅ヲ有シ德ヲ布キ遂ニ兵ヲ舉ケ寒浞ヲ誅シ禹ノ績ヲ復シ中興セリ

(32) 夏后氏幾年何代ニシテ最後ノ王ハ誰レソ

夏后氏十有七世凡テ四百三十二年ニシテ最後ノ王ヲ桀トス

(33) 夏后氏ヲ滅ホセシハ誰レソ

夏王桀無道ナリ天下コレヲ苦シム殷王成湯是ヲ伐テ遂ニ夏ヲ滅ス

(34) 夏ノ官制ヲ述ヘヨ

夏ノ官制ハ三公九卿ニ十七大夫ハ十一元士トス

(35) 夏ノ田制ヲ述ヘヨ

支那歴史



田五十畝ヲ以テ一間トナシ十間ヲ以テ一組トシ十人ニテ一組ノ田ヲ受ケシム

(36) 夏ノ税制ヲ述ヘヨ

貢法ト言ヒ五十畝ノ田ヲ一人ニ授ケ其收入十分一ヲ官ニ取レリ

(37) 殷ハ誰レニヨリテ始メテ起リシカ又タ其人ノ性行如何

殷王成湯英明聰武始メ軍ヲ卒ヒテ諸侯ヲ征シ十一國ニ及フ莘人伊尹賢ナリ始メ夏王桀ニ見ユ用ヒラレス湯ニ歸ス桀ヲ打テ之ヲ滅シ湯天子トナル伊尹ヲ相トシ殷六百年ノ基ヲ創ム

(38) 殷王武丁ノ性行如何

武丁始メ甘盤ニ學ヒシカ即位スルニ及ヒ道ヲ思フフ三年人ヲシテ四方ノ賢才ヲ求メシム傳説ヲ擧ケテ相トス諸侯咸ク來朝セサルナク天下大ニ治マル

(39) 殷王紂ノ性行如何

紂性捷敏才智アリ有蘇氏ヲ伐チ妲己ヲ獲大ニ嬖ス賦税ヲ厚シ刑ヲ重シ淫亂ヲ恣ニス百姓怨望諸侯悉ク離畔ス諸士諫ムレトモ聞カス遂ニ周武王ノ爲メニ滅サル

(40) 殷幾代何年ニシテ最後ノ主ハ誰ソ

殷成湯ヨリ紂ニ至ル迄二十八世六百四十四年ニシテ亡フ

(41) 殷ノ官制ヲ示セ

殷ハ二相六夫五官六府六工ノ諸官アリ

(42) 殷ノ田制ヲ示セ

殷ハ井田ノ法ヲ用ユ

(43) 殷ノ税制ヲ示セ

殷ハ卽法トテ共ニ八家ヲシテ公田ヲ耕サシメ其收穫ヲ税トナセリ

(44) 夏及ヒ殷ノ學制如何

夏ノ時ハ大學ヲ東序トシ小學ヲ西序トシ殷ノ時ハ大學ヲ右學トシ小學ヲ左學トセリ

(45) 夏殷時代ノ音樂如何

音樂ノ技ハ太古ヨリ行ハレ夏殷ノ時ニ至リ大ニ進歩シ夏ノ時禹ノ大夏ノ樂アリ殷ノ時湯ノ大濩ノ樂アリ又タ以其技ノ盛ナリシヲ知ルニ足ル



(46) 周文王ノ事蹟如何

殷ノ紂王ノ時ニ當リ文王ニ命シ西方諸侯ノ長タラシム故ニ西伯トモ稱ス紂ノ曠日ニ衰ヘ文王退テ徳ヲ修ム諸侯紂ニ叛キ歸ス漢南文王ニ歸スル者四十國皆以爲ラク受命君ナリト文王又々武ヲ用ヒ天下ヲ威服ス史記ニ曰ク明年伐犬戎明年伐密須明年伐耆國明年伐邦明年伐崇侯虎而作豊邑ト又曰ク西伯陰行善、諸侯來決平ト

(47) 文王呂尙ヲ得タル所以ヲ示セ

文王ノ時東海ノ人呂尙ナルモノアリ周ニ來ル窮困ニシテ年老ニ文王將ニ獵セントスト者曰ク龍ニ非ス彪ニ非ス熊ニ非ス羆ニ非ス虎ニ非ス貔ニ非ス獲ル所ハ霸王ノ輔ナラント果シテ渭水ノ陽ニ於テ呂尙ト遇フ文王大ニ喜ヒ載セテ共ニ歸リ師トナシ師尙父ト云フ益徳政ヲ施ス

(48) 周武王紂ヲ討ケシ事蹟如何

武王ハ文王ノ子ニシテ其名ヲ發ト云フ文王卒ス武王兵威ヲ示シ孟津ニ至ル此地ハ殷都ト相距ル甚ダ遠カラス是時諸侯期セスマツテ會スル者ハ百余皆曰ク紂伐ツヘシト王聽

カス紂更ニ行ヒテ悛メス王是ニ於テ決意紂ヲ伐ツ伯夷叔齊馬ヲ叩テ諫ムレモ聽カスシテ紂ヲ伐ツ紂鹿台ニ走リテ死ス武王天子トナル

(49) 伯夷叔齊トハ如何ナル人ソ

伯夷叔齊ハ孤竹君ノ第二子ニシテ周武王ノ將ニ殷紂王ヲ討タントスルヤ馬ヲ叩テ諫メテ曰ク父死シテ葬ラス爰ニ干戈ニ及フ其レ孝ト謂フベケンヤ臣ヲ以テ君ヲ討ツ仁ト云フベケンヤト左右コレヲ殺サントス呂尙曰ク義士ナリ扶ケテ去ラシム伯夷叔齊周ノ粟ヲ食ハストテ苦節自ラ守リ首陽山ニ餓死ス

(50) 周公ノ事蹟如何

周ノ武王崩シ太子誦立ツ成王ト爲ス尙ホ幼冲ナルヲ以テ武王ノ同母弟周公及ヒ召公之ヲ輔佐ス周公ハ大宰トナリ政ヲ攝ス時ニ管蔡流言シ武庚ト共ニ乱ヲ爲ス奄、徐、淮夷並ニ起ル周公之ヲ征シ武庚及ヒ管叔ヲ殺シ蔡叔ヲ放チ奄ヲ討平ス又々工ヲ興シ王城ヲ築キ東都トナス當今ノ河南府之ニ治セリ周公ハ勇俊ニシテ才能アリ實ニ周八百年ノ基礎ハ周公ノ方ヨリ出ツト云フモ過言ニアラス



(51) 周公諸侯ヲ封スルノ制度如何

周公ノ時諸侯尙ホ殺伐ノ氣ヲ帶ヒテ動モスレハ干戈ヲ弄セントスルノ恐レアルヲ以テ海内ヲ瓜分シ同姓ノ宗子或ハ異姓ノ功臣ヲ立テ、封セリ以テ天子ヲ擁護セシムルヲ謀ル而シテ其封セラレタル諸侯ニハ五等ノ爵位アリ公、侯、伯、子、男、則チコレナリ又々小國ハ附庸ト稱シ諸侯ノ屬國トセリ

(52) 周室ノ衰微ヲ來タセシ原因如何

幽王ノ時褒ヲ討チ褒姒ト呼フ美女ヲ得タリ王之ヲ嬖シ后トシ其子伯服ヲ太子トシ皇后申氏ト太子宜臼トヲ廢ス佞臣虢石父政ヲ專ラニス申后ノ父申侯西夷犬戎ヲ誘ヒ王ヲ驪山ノ下ニ攻メコレヲ殺ス是ニ依テ宜臼立チ平王ト號ス王城ノ犬戎ニ逼ルカ故ニ洛邑ニ徙ツル識者以テ亡國ノ兆トシ是レヨリ周室衰弱號令行ハレサルニ至リ

(53) 周ノ官制如何

官制ハ周ニ至リ大ニ備ハレリ官ヲ作ル三百六十王公、九卿、大夫士ハ王ニ屬シ諸侯ニ卿大夫士アリ士ハ上中下ノ三ニ分タル王ノ上士ハ特ニ元士ト稱セリ其他列國諸侯大

異ナキカ如シ

(54) 周ノ田制如何

周ノ時一井ヲ九百畝トシ一家ニ百畝ヲ受ケ男子二十二歳ニシテ是ヲ受ケ六十ニ至リ之ヲ歸シ次子ハ年十六ニシテ二十五畝ノ田ヲ受ケリ

(55) 周ノ稅制如何

公田ノ收穫ヲ以テ稅トナシ其他力役ノ征布績ノ征アリ

(56) 周ノ兵制如何

軍隊ノ組織徵集ノ方法服役ノ期限等悉ク備ハル

(57) 周ノ刑政如何

刑、髡、桎梏ノ刑及ヒ徒刑贖刑等ニシテ戰國ニ及ヒ列國ノ間ニ三族、誅夷、梟首、休辟、車裂、鬼薪、城旦等ノ酷刑ヲ用ヒタリ

(58) 周ノ學制如何

周ノ時大學ヲ成均或ハ辟雍ト云ヒ王ノ世子群后ノ世子卿大夫及ヒ元士ノ嫡子并ニ國



内俊選ノ士ノ學フ所トシ小學ハ州ニ序アリ黨ニ庠アリ共ニ普通人民ノ學フ所トシ閭ニ塾アリ閭中有徳ノモノ曾テ仕官セシモノヲ以テ教ヘシム又々諸侯ノ間ニモ大學小學ノ設ケアリ

(59) 周時代ノ繪畫ノ有様ハ如何

司繪ノ職アリテ繪畫ノヲ掌リ周末ニ葉公龍ヲ畫カキシカ妙絶ナリキト以テソノ進歩ヲ知ルニ足ル

(60) 周時代商農ノ狀況如何

周ノ政府ハ農業、山林、養蠶、水産等ニ保護ヲ與ヘ大ニ獎勵セリ而シテ周公以來商業ニハ干涉シ爲メニ農業ヨリモ其進歩稍々遅々タリキ

(61) 春秋戰國ノ起因ヲ問フ

周室已ニ衰微シ王權分レテ列國ニ移リ諸侯各々起テ雄ヲ争ヒ大ハ小ヲ併セ強ハ弱ヲ凌キ政府ノ威以テ天下ヲ制スル能ハスコレヲ以テ群雄割據ノ世トナル

(62) 春秋時代ノ主ナル列國ヲ示セ

春秋ノ世列國中ニ周ト同姓ナルヲ魯、衛、晋、曹、鄭、蔡、燕、吳ノ八トシ異姓ナルヲ齊、宋、陳、秦、楚ノ五トス其餘ノ小國、杞、許、薛等數フベカラス

(63) 春秋戰國ハ周何王ノ時ヨリナルカ

周ノ平王以後ヲ春秋トス又々威烈王ノ時ヨリ以後ヲ戰國トス

(64) 戰國時代ノ主ナル列國ヲ示セ

秦、楚、齊、燕、韓、魏、趙ノ七國トス

(65) 春秋ノ五覇トハ誰々ヲ云フヤ

春秋十二列國ノ中ニテ齊ノ桓公宋ノ襄公晋ノ文公秦ノ穆公楚ノ莊公ヲ稱シテ五覇トイフ

(66) 齊ノ桓公ノ事蹟如何

齊ノ桓公名ハ小白兄ノ襄公無道甚シ群弟皆禍ノ及ハンヲ恐レ出奔ス襄公亂ニ斃ル小白歸リ立ツ則チ桓公トス齊ハ桓公ニ至リ諸侯ニ覇トナル桓公諸侯ヲ威制シ五覇ノ首トナル然レモ忠臣タル管仲死シテ後チハ小人ヲ昵親シ内嬖六人皆チ公子アリテ桓



公薨シテ五公子立ツテ争ヒ國大ニ亂衰ス

(67) 管仲ノ事業ヲ問フ

管仲字ハ夷吾才略アリ初メ諸公子ノ出奔スルヤ召忽及ヒ管仲ハ小白ノ兄子糾ヲ奉シ魯ニ奔リシカ齊人小白ヲ迎フルニ及ヒ魯モ亦タ兵ヲ發シ子糾ヲ送ル管仲小白ヲ射テ帶鈞ニ中テ將ヲサス遂ニ子糾ハ魯ノタメニ殺サレ召忽之ニ死シ管仲囚ハレシテ乞フ鮑叔コレヲ桓公ニ薦ム桓公怨ヲ捨テ大ニ重用シ仲父ト呼ブ管仲政ヲ爲シ士農工商ヲシテ其居ヲ異ニセシメ士ハ義勇ヲ養ハシメ民ハ財利ヲ殖シメ國力日ニ富強ニ赴ク齊桓公ヲシテ五覇ノ首ヲラシメタルモノ實ニ管仲ノ力ナリト云フベシ

(68) 晋文公ノ事蹟如何

文公名ハ重耳献公ノ二子ナリ献公嘗テ驪戎ヲ伐チ驪姫ヲ獲之ヲ嬖シ其子奚生ヲ立シト欲シ太子申生ヲ殺ス重耳出奔シ狐偃、趙衰、賈佗、魏雋等ト諸國ヲ周流スル十九年狄ニ陥リ衛ニ困ミ齊ニ脱レ楚ニ奔リ辛苦備サニ嘗メ後チ國ニ歸リ立チ狐偃、趙衰ノ徒ニ國政ヲ屬シ厲精治ヲ圖ル時ニ子帶、赤狄ヲ以テ襄王ヲ攻ム王難ヲ諸侯ニ告ク

(69) 秦ノ穆公トハ如何ナル人ソ

文公狐偃ノ言ヲ納レ兵ヲ發シ子帶ヲ殺ス襄王邛ヲ嘉ミシ厚ク饗シ又タ南陽ノ田ヲ賜フ己ニシテ楚ノ成王陳、蔡、許、鄭ヲ卒井宋ヲ圍ム宋急ヲ晋ニ告ク文公齊、宋、晋、ノ軍ヲ以テ城濮ニ楚人ヲ敗リ諸侯ヲ温ニ會シテ周ノ襄王ニ踐土ニ朝ス襄王策命シテ文公侯伯トス諸侯王庭ニ盟ヒ晋ニ從フ是レヨリ百余年晋天下ニ覇タリ

秦ノ穆公ハ德公ノ子ニシテ襄公八世ノ孫ナリ襄公周ノ平王ノ難ヲ救ヒ諸侯トナル穆公ハ賢才ヲ能ク用ヒ百里奚ヲ市ニ舉ケ相トス百里奚亦タ非凡ノ才ヲ以テ之ヲ輔佐シ又タ蹇叔、公孫友、由余、孟明等ヲ信任シコレ等ノ諸賢文ヲ修メ武ヲ鍊リ秦是ニ由テ大ニ起ル遂ニ國ヲ併スル二十余地ヲ割ク千余里西戎ニ覇トナル

(70) 楚莊王ノ事蹟如何

莊王始メ放蕩ニシテ宴遊コレ事トス大夫蘇從伍舉ノ諫メヲ納レ急ニ其行ヲ改メ兵弊政ヲ釐革シ大ニ國人ノ心ヲ得國政亦大ニ張ル己ニシテ庸ヲ滅シ宋ヲ伐チ周境ニ觀兵ス后チ王孫叔毅ヲ得相トシ遂ニ衆舒ヲ平ケ吳越ト會盟シ晋ト戰ヒ宋ヲ伐チ諸侯ニ



支那歴史

(71) 吳越ノ争ヒトハ如何

覇トナリ名聲大ニ振フ  
 吳王闔廬楚ノ亡臣伍員ヲ擧ケテ國事ヲ謀ラシム伍員闔廬ニ勸メテ楚ヲ討タシメ自ラ將トシテ楚都鄧ニ入ル楚大ニ敗レ隨ニ走ル又々越ヲ伐ツ闔廬傷キ死ス子ノ夫差立ツ夫差讎ヲ復セント志シ朝夕薪中ニ臥シ出入人ヲシテ夫差越王ノ汝ノ父ヲ殺セルヲ忘レタルカト呼ハシメ遂ニ周敬王二十六年越ヲ夫椒ニ敗ル越王勾踐餘兵ヲ以テ會稽山ニ住ミ降ヲ乞フ吳之ヲ許ス勾踐辛苦艱難具サニ嘗メ大夫種ヲ用ヒ兵備ヲ修ム時ニ吳王夫差志驕リ宴樂ニ耽リ讒ヲ信シ伍員ヲ殺ス勾踐コレニ乘シ周元王四年夫差ヲ敗リ遂ニ吳ヲ滅ス

(72) 鄭子産ノ人トナリテ問フ

子産名ハ僑鄭ノ簡公ニ相トナリ政ニ從フ凡ソ三年民ヲ養フニ惠ヲ以テスソレ鄭ハ晋楚ノ間ニ挾リテ穆公襄公ノ時ヨリ歲トシテ晋楚ノ民ヲ被ラサルナク國勢振ハス子産相トナリ受クルニ禮ヲ以テシ固ク守リ毫モ屈セス晋楚ノ強ト雖モ之ニ加フルヲ能ハ

サリキ

(73) 魯ニ於ケル孔子ノ政事如何

周敬王十九年ニ於テ魯定公立チ孔子ヲ中都ノ宰トナス一年ニシテ民其德ニ懷ツク中都ヨリ司空トナリ更ニ大司寇ニ進ム定公ヲ助ケ齊ノ景公ト夾谷ニ會ス齊人定公ヲ却サントス孔子禮ヲ以テ卻ク景公爲メニ懼レ侵ス所ノ魯ノ鄆陽、龜陰ノ地ヲ歸シ以テ謝ス又々孔子定公ニ言テ將ニ三都ヲ墮チ以テ公室ヲ強フセントシ叔孫氏先ツ鄆ヲ墮チ季氏費ヲ墮ツ孟子成ヲ墮ツヲ肯ンセス孔子大司寇ヨリ相ノヲ攝行シ七日ニシテ大夫少正卯ヲ誅シ居ルヲ三月魯大ニ治ル齊コレヲ恐レ女樂ヲ魯ニ送ル孔子遂ニ魯ヲ去ル

(74) 春秋戰國時代ノ文學ノ景况如何

支那ノ文學ハ周時代ニ至リテ最モ開ケ文物典籍粲然タリ維春秋ハ孔子ノ筆削セル魯ノ史記ニシテ論語二十篇ハ孔子及ヒ門弟子ノ語トス又々孟子、荀子、老子、列子、墨子等ノ文玄妙俊勁ノモノトス史傳ニハ左傳、國語、戰國策アリ辭賦ニハ屈原、鄒子、伊子

支那歴史



支那那歷史

慎子、宋玉等ノ諸子アリ兵書ニハ黃石公素書、孫子、吳子、司馬兵法等法律書ニハ韓非子、商子、管子アリ又々公孫龍論理學ヲ唱ヘ亢倉子理學ヲ説キ天文學數學曆學皆ナ進歩發達セリ蓋シ支那文學ノ美ハ春秋戰國ノ間ニ鍾マルト云フベシ

(75) 支那郡縣制度ノ濫觴ヲ問フ

支那ニ於テ郡縣制度ハ僖公ノ二十三年宣公ノ十一年十二年十五年及ヒ成公ノ六年襄公ノ二十六年三十年昭公ノ三年五年十年廿八年哀公ノ十七年ニ縣ノ處分アリタリ

(76) 戰國ノ四公子トハ誰レナリヤ

齊ノ孟嘗君趙ノ平原君魏ノ信陵君楚ノ春申君ノ四公子ハ各士ヲ養ヒ客ヲ招キ以テ一國ノ重キヲナセリ

第四編

中古史

(77) 秦ノ孝公ノ事蹟ヲ述ヘヨ

秦ハ襄公ノ時始メテ諸侯トナリ繆公ニ至リ西戎ニ弱タリ孝公ノトキ河山以東強國六

支那那歷史

小國十余アリテ皆秦ヲ擯斥シテ夷狄トナシ諸侯ノ會盟ニ與ラサラシム是ニ於テ孝公勵精治ヲ圖リ功賞ヲ明ニシ命ヲ下シテ曰ク賓客群臣能ク奇計ヲ出シ秦ノ強チ圖ルモノアラハ尊官ヲ付シ之ニ國土ヲ分與セント是ヲ以テ俊才英傑ノ士多ク集マリ遂ニ諸侯首ヲ俯シテ抗スル能ハサルニ至ル實ニ六國ヲ併呑スルノ基ヲナシタルハ孝公ナリ孝公又々法律ヲ變革シ井田ノ法ヲ廢シ阡陌ヲ開キ賦稅ノ法ヲナシ都ヲ咸陽ニ遷セリ

(78) 秦孝公ヲ最モ輔佐シタルハ誰レゾ

衛公ノ庶孫ナル商鞅トス秦ノ法律ヲ變革シタル如キハ鞅ノ言ニヨル

(79) 合從連衡ノ起因ヲ問フ

秦孝公紀綱ヲ一振セシヨリ子惠文王立ツニ至リ秦益強大ニ赴ク時ニ惠文王兵ヲ東方ニ出ス六國其力ヲ併スルニアラサレハ抗スル能ハスコレヲ以テ合從連衡ノ説起ル

(80) 合從連衡ノ狀勢如何

蘇秦ハ周洛陽ノ人ナリ魏人張儀ト鬼谷先生ニ學ブ蘇秦才氣アリ秦惠文王ニ見ユ用ヒテレヌ去テ北ノ方燕文公ニ説キ趙ト從親セシム趙蕭公大ニ喜ヒ諸侯ニ約セシム蘇秦



縱横ノ辨ヲ揮テ諸侯ニ説クヨ、ニ於テ六國合従ス蘇秦ソノ長トナリ六國ノ相印ヲ佩  
 ヒ趙ニ報ス己ニシテ秦公孫衍ヲシテ魏齊ヲ欺キ趙ヲ伐タシム趙王大ニ蘇秦ヲ責ム蘇  
 秦恐レ趙ヲ去ル合従ノ約遂ニ解ケリ  
 コノ時張儀ハ秦ニ入ル惠文王大ニ悦ビ客卿トナス儀秦兵ヲ卒ヒテ魏ヲ伐チ一邑ヲ得  
 復タコレヲ與ヘ魏ノ襄王ヲ欺キ上郡十五縣ノ地ヲ割キ秦ニ謝セシム儀或ハ秦ノ相ト  
 ナリ或ハ魏ノ相トナリ變詐權謀ヲ以テ秦ノ爲メニシ楚ヲ敗リ又タ齊、趙燕ニ説キ連  
 衡シテ秦ニ事ヘシム惠文王卒シ子ノ悼武王立チ儀ト合ハス諸侯之ヲ聞キ連衡ニ畔キ  
 合従ス

(81) 秦ノ始皇六國ヲ併吞セシ時ノ各將軍ハ誰々ナルカ

内史騰韓ヲ滅シ王安ヲ虜ニス  
 王翦趙ヲ伐ツ趙將李牧能ク禦ク秦反間ヲ以テ李牧ヲ殺サシメ遂ニ趙ヲ滅ス王翦又タ  
 楚ヲ滅セリ  
 王翦ノ子王賁魏ヲ滅ス

支那那歷史

支那那歷史

燕荆軻ヲシテ計ヲ以テ秦王ヲ刺サシム將タサス秦始皇大怒兵ヲ發シ燕ヲ討チコレヲ  
 滅ス其將誰レタルカヲ知ラス是ニ於テ諸侯皆ヲ滅フ獨リ滅セサルハ衛ノミ然レモ二  
 世皇帝ノ時庶人トナセリ

(82) 李斯ノ略傳ヲ示セ

李斯ハ楚人ニシテ荀卿ニ學ヒ才氣アリソノ門ヲ辭スルノ時謂テ曰ク今秦欲吞天下稱  
 帝而治、此布馳騫之時、而遊說者秋也ト遂ニ秦ニ入ル時ニ秦宗室大臣議シテ逐客令ヲ  
 出ス斯亦タコノ中ニアリシモ途ヨリ上書シ其非計ヲ論セシカバ始皇斯ヲ喚歸シ其官  
 ナ復ス更ニ廷尉ニ昇進シ己レト競走セントスルノ士ハ悉ク除去シ累進シテ丞相トナ  
 リ上蔡ノ一布衣ハ遂ニ秦國ノ政權ヲ掌握セリコレヨリスハ着々歩ヲ進メ政治改革ニ  
 着手シ男ハ皆ヲ秦ノ公主ニ尙シ女ハ悉ク秦ノ諸公子ニ嫁シ富貴榮花ヲ一門ニ集ム然  
 レモ始皇崩シ二世皇帝立ツニ至リ趙高ノタメニ讒セラレ五刑ヲ具ヘテ咸陽ノ市ニ腰  
 斬セラレ三族ヲ夷セラル

(83) 始皇ノ焚書坑士セシ所以ヲ問フ



始皇ノ焚書セシハ實ニ李斯ノ上書ニヨル曰ク……今日天下定マリ法律一ヨリ出ツ  
 ……然ルニ書生今ヲ師トセス古ヲ學ヒ以テ當世ヲ譏リ黔首ヲ惑亂シ命ノ下ルヲ聞  
 ケハ各々其學ヲ以テ之ヲ議シ入テハ則チ心ニ非トシ出テ、ハ則チ巷ニ議ス此ノ如ク  
 ニシテ禁セサレハ主勢上ヨリ降り黨與下ニ成ラン臣請フ天下百家ノ語ヲ藏ムルモノ  
 アラハ守尉ニ詣テ之ヲ燒カン……其去ラサルモノハ醫藥卜筮種樹ノ書ノミ若シ法  
 律ヲ學ハントスルモノハ吏ヲ以テ師トセヨト」制曰可也コ、ニ於テ數千百年ノ久シ  
 キヲ經テ備具シタル詩書百家ノ語ハ一朝灰燼トナレリコレヲ以テ書生學士不平ヲ唱  
 ヘ其弊痛激ニ政府ヲ抗擊スルニ至リ三十五年侯生盧生共ニ始皇ヲ誹譏シ亡ケ去ル始  
 皇大怒御史ヲシテ悉ク案問セシム書生傳テ相告引シ自除シ禁ヲ犯スモノ四百六十餘  
 人皆ナ之ヲ咸陽ニ坑ニス

(84) 秦末ノ景況如何

秦二世皇帝名ハ胡亥始皇ノ少子トス好兒ナル趙高ノ言ヲ聞キ法ヲ嚴ニシ丞相李斯ヲ  
 殺シ大臣及ヒ諸公子ヲ誅シ日夜宴樂ニノミ耽ル趙高專横ヲ極メ群臣恐レテ其過ヲ云

フモノナク人民大ニ怨望ス其機ニ乘シ群雄兵ヲ舉ク趙高曰ク關東ノ盜何ソ能ク爲サ  
 ント秦兵屢々敗ルニ及ヒ帝ノ怒ヲ恐レ入ヲシテ望夷宮ニ弒セシメ公子嬰ヲ立テ帝ト  
 ス嬰立チ趙高ヲ族誅シ諸將ト約シテ曰ク先ツ入テ關中ヲ定ムルモノハ王タラント時  
 ニ秦兵強ク關ニ入ルヲ利トセス然ルニ項羽秦ヲ怨ムノヲアリ沛公ト奮テ關ニ入ラト  
 ソ願フ諸將項羽ヲ慄悍猾賊ナリトシ獨リ沛公ノミヲ遺ル韓人張良常ニ韓ノ滅亡ヲ憤  
 リ仇ヲ報セントシ韓兵ヲ卒テ沛公ニ從フ沛公大ニ秦兵ヲ敗リ嬰出テ降り秦ノ世ハ三  
 世十五年ニシテコ、ニ滅ブ

(85) 秦始皇ノ時毛筆ヲ精製セシモノハ誰レソ

始皇ノ時蒙恬長城ヲ築キシ中ノ中山ノ兔毫ヲ以テ毛筆ヲ精製セリ

(86) 秦ノ邦制如何

秦天下ヲ一定シ周ノ世諸侯強大ニシテ制シ難キニ懲リ天下ヲ三十六郡ニ分チ守尉監  
 チ以テ之ヲ治メリ

(87) 秦ノ稅制如何



秦孝公ノ時井田ノ法ヲ廢シ貢賦トナス

(88) 秦ノ刑制如何

秦ノ時三族ヲ夷誅スルノ法始メテ起リ始皇ニ至リ梟首車裂體解鬼薪城旦等ノ苛法出ツ

(89) 西漢ノ高祖ノ人トナリテ問フ

太祖高帝劉邦字ハ季沛ノ人ナリ性寛弘大度アリ壯ナルニ及ヒ泗上ノ亭長トナル陳勝ノ乱ニ當リテ蕭何曾參等ト兵ヲ沛ニ起シ秦王ヲ降シテ咸陽ニ入ル沛公秦ノ宮室寶貨婦女ヲ見留マラント欲セシモ樊噲ノ諫メニヨリ霸王ニ軍シ悉ク諸縣ノ父老ヲ召シ法三章ヲ約シ余ハ總テ秦ノ苛法ヲ除ク秦民爲メニ大ニ悦ブ

(90) 沛公何ヲ以テ天下ノ阨塞兵力ノ強弱戸口ノ多少ヲ知ルヲ得シヤ

諸將皆ヲ金帛財物ヲ爭ヒ取ル獨リ蕭何ノ三丞相府ノ圖籍ヲ收メコレヲ藏ス故ニ天下ノ阨塞戸口ノ多少兵力強弱ヲ知ルヲ得タリ

(91) 沛公ヲ助ケタル有名ノ士三四ヲ示セ

蕭何 張良 樊噲 韓信 陳平等トス

(92) 項羽ノ末路如何

初メ項羽ノ起ツヤ戰ヘハ則チ勝チ攻ムレハ則チ取リ三秦ヲ平定シ西楚ノ霸王トナル然レモ遂ニ垓下ノ役ニ至リ兵少ク食尽キ壁ニ入ル漢ノ高祖遂ヒコレヲ敗リ圍ムヲ幾重夜漢軍ノ四面ニ楚歌スルヲ聞キ大ニ驚キ曰ク漢皆ナ己ニ楚ヲ得タル乎何ソ楚人多キヤト帳中ニ飲シ虞美人ニ命シ起テ舞ハシム悲歌慷慨淚點々其歌ニ曰ク力拔山兮氣蓋世、時不利騅不逝、騅不逝兮可奈何、虞兮虞兮奈若何ト(騅ハ項羽平日乗ル所ノ駿馬ナリ)左右皆泣キ敢テ仰視スルモノナシ羽乃チ夜八百余騎ヲ從ヘ圍ヲ潰シテ出テ道ヲ失シ遂ニ自刎シテ死ス

(93) 西漢ノ初メ匈奴ノ入寇セシ顛末ヲ畧述セヨ

初メ匈奴秦ノ強ク恐レ北ニ徙ル中國乱ル、ニ及ンテ河南ヲ渡リ邊ニ寇ス匈奴疆域極メテ廣ク諸侯王之ニ隸屬シコノ時ノ天子タル冒頓ハ勇武ニシテ權謀アリ高祖韓王信ヲシテ禦カシム匈奴信ヲ馬邑ニ圍ミ遂ニ降ス是ヲ以テ高祖自ラ將トシ信ヲ擊チ其軍



ヲ破ル匈奴併リ走ル高祖進メテ平城ニ至ル冒頓コレヲ白登ニ圍ムヲ七日遂ニ和ヲ結ビ兄弟トナリ高祖ハ毎歲繒絮酒米等ヲ贈リ其歡心ノ足ラサルヲ恐レリ

(94) 西漢ノ景帝ノ時七國ノ反セシ原因ヲ問フ

景帝ハ文帝ノ子ニシテ大ニ晁錯ヲ愛ス帝ノ時吳王濞朝セス錯奏シテ曰ク吳王將ニ亂ヲ作サント謀ル乞フ地ヲ削ルモ反セン削ラサルモ反セン之ヲ削ラハ反丞ニシテ禍少ナラン削ラサレハ反遲クシテ禍大ナラント帝公卿列侯ヲシテ議セシム敢テ難スルモノナシ錯又々奏シ楚、趙、膠西、吳ヲ削ル遂ニ吳王反ス膠西、膠東、菑川、濟南、楚趙皆ナ吳ト約アリ是ニ至リ同シク反ス

(95) 七國ノ反ノ狀勢如何

其勢タルヤ一時ハ猖獗ニシテ當ルヘカラス漢景帝周亞夫ヲ以テ大將トナス亞夫三十六將軍ニ將トナリ吳楚ヲ伐ツ袁盎晁錯ト善カラス此ニ至テ奏シテ曰ク獨リ錯ヲ斬テ諸侯ノ故地ヲ復セハ兵刃ニ血ヌラスシテ罷ムヘシト錯遂ニ腰斬セラレ三族亦々夷セラル周亞夫大ニ吳楚ヲ破ル是ニ於テ諸反平ク

(96) 西漢武帝匈奴ヲ征セシ素志如何

武帝性英武聰明威名ヲ四方ニ耀サント欲スルノ志アリ嘗テ謂ラク高帝平城ノ辱ヲ遺セリト其耻ヲ雪カンヲ常ニ思ヘリコレ匈奴ヲ征セシ所以ナリトス

(97) 西漢宣帝ノ時ノ良吏ヲ列記セヨ

趙廣漢 伊翁歸 韓延壽 龔遂皆ナ大守トナリ民ヲ治ム亦々良相ニハ魏相及ヒ丙吉アリ名將ニハ趙充國アリ

(98) 西漢ノ衰頽ヲ來タセシハ何帝ヨリシテ何ノ爲メカ

宣帝崩シ太子立ツ孝元帝コレナリコノ時ヨリ宦官ノ威權日ニ熾シテ宣帝中興ノ業始メテ衰ヘ來タシ成帝ニ至リ宦官ソノ威ヲ失ヒシモ外戚ニ歸シ平帝ノ時ニ當リ王莽纂集スルニ至ル

(99) 東漢ノ光武中興ノ業ヲ問フ

光武帝劉秀字ハ文叔高祖九世ノ孫ナリ王莽ノ天下ヲ取ルニ及メテ群雄四方ニ降起ス劉季ハ新市平林ノ兵起ルニ至リ宛人李通ニ迎ヘラレ兵ヲ舉ク秀時ニ年二十八賓客ヲ



部署シ諸將ヲ招キシニ新市平林ノ兵皆來會ス然ルニコレヲ統一スル所ナシ劉氏ヲ立テ人望ニ從ハント欲セシモ秀ノ兄續ヲ大司徒トナシ秀ヲ鄧將軍トナス昆陽ノ戰ニ於テ續及ヒ秀ハ共ニ威名ヲ輝カシ勢日ニ熾ンナリ續ノ同族更始將軍コレヲ忌ミ遂ニ續ヲ殺ス秀喪ヲ發セス談笑平日ノ如シ唯枕席ニ涕泣スルノミ更始愧テ秀ヲ大將軍ニ拜ス尋テ大司事ノヲ行ハシム秀ノ威徳日ニ盛ンニシテ更始ハ赤眉ノ爲メ殺サレ是ニ至リ群臣尊號ヲ奉ル因テ鄧南ニ於テ劉秀即位ス時二年三十一後ヲ洛陽ニ都ス漢茲ニ中興セリ

(100) 東漢ノ光武ノ治術及ヒ補佐シタルモノヲ擧ケヨ

光武帝ハ英明ニシテ宏達又タ能ク人ヲ知り善クコレヲ用ユ大亂ヲ鎮定シ擧トシテ過事ナシ内乱ヲ戡定シタル功臣ニハ祭遵、吳漢、耿弇、賈復、鄧禹、馮異等アリ外征ノ英將ハ馬援アリ名臣ニハ郭波杜詩等アリ國內已ニ定マルニ及ヒ武臣ヲ退ケ其兵權ヲ收メ能ク之ヲ保全シ功臣ノ封邑ヲ増シ名徳ノ士ノ隱遁セルモノヲ訪求シ大學ヲ起シ典禮ヲ修メ文物燦然タリ

(101) 東漢光武帝ノ後ヲ繼キシハ誰帝ニシテ治蹟如何

光武帝已ニ崩シ太子立ツ孝明帝則チコレナリ帝明察ニシテ刑理ニ通シ法令詳明位ニアル十八年天下大ニ治マル

(102) 班超ノ攻伐如何

東漢孝明帝ノ時匈奴已ニ南北ニ分レ兵勢漸ク衰フ耿秉帝ニ北匈奴ヲ擊タソフヲ乞フ帝之ヲ嘉シ兵ヲ出シ涼洲ニ屯シ班超ヲ西域ニ使ス鄯善ニ至ル其王禮スルヲ厚シ匈奴ノ使來リ頓ニ疎懈ナリ超吏士三十六人ヲ會シ曰ク虎穴ニ入ラスンハ虎子ヲ得スト虜營ニ至リ其使及ヒ從士百余人ヲ斬ル鄯善大ニ震恐ス超告クルニ再ヒ匈奴ト通スルナカラシム超又タ寔ニ使ス其王恐レ匈奴ノ使ヲ殺シ降ル超又タ章帝ノ時西域ヲ平ケント欲シ上疏シテ兵ヲ乞フ帝千余人ヲ遣シ將軍長史トナス超西域ニ在ル三十年功ヲ以テ定遠侯ニ封セラル

(103) 虞詡ノ雄才ヲ問フ

孝安帝ノ時邊境多事ナリ大將軍鄧騭涼州ヲ棄テント欲ス虞詡時ニ郎中タリ之ヲ駭シ



衆亦々詔ノ言ニ從フ會々朝歌ノ賊數千蜂起ス詔ヲシテ朝歌ノ長トス故舊之ヲ吊スル  
モ詔笑テ官ニ至リ先ツ壯士ヲ募リ賊中ニ入り誘テ劫掠セシメ伏兵シテ數百ヲ殺シ亦  
タ貧人ノ裁縫ヲ能クスルモノヲ潛カニ遣シ賊衣ヲ僱作シ其裾ヲ縫フニ縲線ヲ以テセ  
シメ市里ニ出ルアレハ直チニ囚ヘリ賊大ニ驚キ諸縣至ク平ク尋テ武都ノ大守トナリ  
又々策ヲ用ヒ遂ニ是ヲ破リ一郡安シ

(104) 東漢ノ世宦官權ヲ用ヒ始メシハ如何

和帝ノ時竇后太后トナリ朝ニ臨ミ太后ノ兄自ラ乞フテ匈奴ヲ伐チ功アリ大將軍トナ  
リ權ヲ專ラニス和帝長シソノ逆謀ヲ知り宦官鄭衆ト議シ迫テ自殺セシメ衆鄧鄉侯ニ  
封セラルコレヨリ宦官權ヲ用ヰルニ至ル順帝ノ時宦官功ヲ以テ侯トナルモノ十九人  
桓帝ノ時宦官單超等ト兵ヲ勦シ外戚梁冀大將軍ニ自殺セシメ宦官益橫專トナル而シ  
テ其ノ源因タル士流ヲ雜調セス閹人ヲ用ヒタルト和帝ノ宦官鄭衆ト政ヲ議セルトニ  
ヨル

(105) 東漢ノ時黨人ノ獄アリソ顛末ヲ畧記セヨ

孝桓皇帝ノ時陳蕃李膺其徒ト名節ヲ以テ自ラ高シトシ臧否ヲ以テ相伺フ中外風ヲ受  
ケ公卿以下其敗蹟ヲ畏レサルモノナシコノ時ニ當リ成瑨大原ノ守劉瓚及ヒ山陽ノ守  
翟超及ヒ東海ノ相黃浮等各々宦官ヲ殺ス宦官冤ヲ訴フ皆罪ヲ得蕃屢々コレヲ爭フ帝  
聽カス宦官人ヲシテ上書ス曰ク李膺大學ノ遊士ヲ養ヒ部黨ヲ爲シ朝廷ヲ誹訕シ風俗  
ヲ惑乱スト帝大怒膺等ヲ獄ニ下ス蕃極諫シ爲メニ免セラル後チ買彪ノ上疏ニヨリ黨  
人二百余名皆赦サレ田里ニ終身禁錮ス是ヲ第一ノ黨人ノ獄トス孝靈帝ノ時ニ至リ竇  
太后朝ニ臨ミ竇武大將軍トナリ李膺陳蕃等再ヒ出テ朝ニ列ス蕃武等宦官ノ政權ヲ弄  
スルヲ惡クシ悉ク除去セントシ謀漏レ反テ宦官等ノ爲メニ誣ヘラレ陳蕃ヲ殺シ武自  
殺シ李膺廢錮セラレ黨人ノ死スルモノ百余廢錮セラル、モノ六七百是ニ於テ正義ノ  
士多ク漸滅セリコレヲ第二ノ黨獄トス

(106) 佛教ノ始メテ支那ニ入リシハ何帝ノ時ナルカ

東漢ノ世顯宗明皇帝ノ時ナリトス帝始メ夢ミ西域ニ佛アルヲ聞キ遂ニ中郎蔡愔博士  
秦景等十八人ヲ遣シ西域ニ至リ佛法ヲ求メシム蔡愔等天竺ノ隣境月氏國ニ於テ梵僧



攝摩騰竺法蘭ノ二人佛經佛像ヲ奉シ震旦ニ來ルニ會ス遂ニ共ニ東ニ歸リユレヨリ佛法四方瀰蔓ス

(107) 樹皮弊布等ヲ以テ紙ヲ製セシハ誰レナルカ

後漢ノ世宦官蔡倫造意シテ樹皮或ハ弊布等ヲ用ヒ鑄抄シ紙ヲ作レリ

(108) 漢ノ邦制如何

漢ニ至リ王侯ヲ置キシモ其國政ハ太守縣令之ヲ行ヒ武帝ノ時天下ヲ十二州ニ分テ州ニ刺史ヲ置キ州ノ下ニ郡縣鄉亭里アリ又々京師攝近ノ地ニハ三輔ヲ置ケリ

(109) 漢ノ稅制如何

漢ノ高祖ニ至テ十五ニシテ一ヲ稅シ後漢ノ光武ニ至リ田租三十トセリ明帝ノ時布帛ヲ以テ租トセシヨアリ

(110) 漢ノ刑政如何

漢ノ高祖悉ク秦ノ苛法ヲ除キ約法三章ニ定メ後チ蕭何ヲシテ律九章ヲ作ラシメ叔孫通コレヲ益シ十八篇トナシ文帝ノ時肉刑ヲ除キ景帝ノ時笞箠ノ刑ヲ定メ武帝ノ時律

支那歷史

合三百五十九章アリ

(111) 魏ノ武帝トハ如何ナル人ソ

東漢獻帝ノ時ニ至リ天下大ニ乱レ英傑士草莽ヨリ起チ精兵ヲ擁シ一方ニ雄視ス武帝亦タコノ一人ニシテ名ハ曹操字ハ孟德性聰明勇武權略アリ黃巾ノ亂ヲ破リ初メテ名ヲ知ラレ又々群雄ヲ卒ヒテ董卓ノ亂ヲ平ラケ自ら大將軍トナリ武平侯ニ封セラル尋テ獻帝ヲ許ニ遷シ政權ヲ握リ天子ハ唯空位ヲ守ルノミ嘗テ汝南ノ許劭操ヲ論評シテ曰ク治世ノ能臣亂世ノ姦雄ナリト操聞テ大ニ喜ブ遂ニ魏ノ武帝トナレリ

(112) 魏ノ武帝ヲ最モ補佐シタルハ誰レソ

荀彧及ヒ程昱ノ二人トス

(113) 吳ノ孫策ノ性行ヲ問フ

孫策字ハ伯符孫堅ノ長子ナリ堅ノ劉表ノ將黃祖ニ射殺サレシ時年十余父ノ余兵ヲ奉ヒテ弟孫權ト共ニ江上流リ轉鬪シ向フ所敵ナシ策コレヨリ江東ヲ下リ民ヲ安メシ衆ヲ恤ミ歡聲野ニ充テ賢ヲ禮シ士ニ下リ精兵多ク糧食足リ將ニ許都ヲ襲ハントシ未ダ



發セス會々出獵シ射ラレ傷甚クシ弟孫權ヲ呼ヒ代テ衆ヲ領セシメ年二十六ニシテ死セリ

(114) 吳ノ孫權ノ性行如何

孫權ハ孫策ノ弟ニシテ字ハ仲謀兄ノ遺命ヲ承ケ江東ヲ治メ周瑜魯肅ヲ任用シ俊才ノ士ヲ招キ遂ニ吳ノ大祖トナル權智勇絶倫宏度アリ

(115) 赤壁ノ戰ヒテ畧記セヨ

曹操ハ帝ヲ擁シ天下ニ號令シ自ラ丞相トナレリ曹劉表ヲ擊ツ時ニ表卒シ其子琮荆降ル荆州ノ民多ク備ニ歸ス曹追擊甚ク急ナリ兵勢盛ニシテ旌旗天ヲ蔽フ諸葛亮備ニ說キ救ヲ孫權ニ乞フ權大ニ喜ブ時ニ曹操書ヲ權ニ送り曰ク今マ水軍八十万ノ衆ヲ治ム乞フ將軍ト吳ニ會獵セマト群下色ヲ失ヒ之ヲ乞ヘンヲ乞フ魯肅固ク執テ聽カス周瑜ニ三萬人ヲ督セシメ劉備ト力ヲ併セ赤壁ニ於テ操ヲ邀ヘ大ニ之ヲ破ル操僅カニ身ヲ以テ逃レルヲ得タリ操爾後屢兵ヲ權ニ加フルモ志ヲ得ス

(116) 東漢獻帝ニ迫リ位ヲ讓ラシメタルハ誰レソ

魏ノ曹操自ラ王トナリ僭號セシテ卒ス其子丕立チ遂ニ獻帝ニ迫リ位ヲ禪ラシメ自ラ帝トナリ文帝ト號ス

(117) 三國トハ何國ニシテ各帝ト稱シタルモノヲ列記セヨ

魏 吳 蜀ヲ稱シテ三國トス各帝ト稱シタルハ魏ノ丕ノ文帝ト僭スルヲ蜀ノ劉備亦タ照烈帝ト號シ吳ノ孫權建業ニ都シ帝ト稱セリ

(118) 蜀劉備ノ性行ヲ畧記セヨ

劉備字ハ玄徳其先ハ漢ヨリ出ツ備幼ニシテ孤トナリ家貧ナリ母ト共ニ履ヲ販クヲ業トセリ性寛大ニシテ言語少ク大志アリ好テ交ヲ天下ノ英傑ト結ヒ關羽、張飛ト友交厚ク備ノ起ツヤ二人亦之ニ從ツ漢ノ末戰功ヲ以テ平原ノ相トナリ後チ曹操ニ歸シ豫州ノ牧トナリ遂ニ操ヲ擊テ敗レ荆州ニ奔リ諸葛亮ヲ得テソノ謀計ヲ聽キ遂ニ益州ヲ領シ立脚ノ地トシ威ヲ振ヘリ

(119) 諸葛亮ノ人トナリ如何

諸葛亮字ハ孔明襄陽ニ隱寓シ隴畝ニ耕シ吟嘯セリ徐庶曾テ劉備ニ謂テ曰ク諸葛孔明



ハ臥龍ナリ屈致スヘカラス將軍宜シク駕ヲ枉ケ之ヲ願ミヨト劉備因テ三々ヒ往テ亮ヲ見ルヲ得テ策ヲ問ヒコレヨリ亮ト情好日ニ密ナリ孔明大勢ヲ達觀シ劉備ノ死後遺子ヲ奉シ始終異ナルナク實ニ正大高明ニシテ又々勇武ナリ眞ニ天下ノ奇才ト謂フベシ

(120) 魏ヲ滅シタルハ誰レゾ

司馬炎トス

(121) 司馬氏ノ魏ヲ滅シタル次第ヲ畧記セヨ

司馬懿初メ魏主文帝ヲ輔ケ明帝ノキ丞相トナリ威權ヲ專ラニシ其子師ハ大將軍トナリ遂ニ帝芳ヲ廢シ高貴卿公髦ヲ迎ヘ師卒シ弟昭大將軍トナリ威權日ニ盛ンナリ公髦ヲ弑シ元帝ヲ迎ヘ昭卒シ炎ツク遂ニ元帝ニ迫リ位ヲ禪ラシメ自ラ帝トナリ世祖武帝ト號ス

(122) 吳ノ滅亡ヲ記セ

武帝常ニ吳ヲ滅スノ志シアリ時ニ吳王皓淫亂甚ク政ヲ亂ニス武帝杜預ノ屢々吳

(123) 五胡華ヲ滅スノ原因ヲ問フ

ヲ征セント願ヲ以テ之ヲ許ス杜預大舉江陵ヨリ出テ王濬巴蜀ヲ下ル大康元年諸軍並ヒ進ミ直チニ建業ヲ指シ石頭城ニ入ル吳王面縛出テ降ル

東漢ノ末ニ當リ匈奴ノ一部落入テ塞内ニ住シ姓劉氏ヲ冒ス魏ノ武帝其衆ヲ五部ニ分ツ劉淵ヲ左部帥トス華ヲ亂ルノ原因實ニ是ニアリ

(124) 晋ノ滅亡如何

懷帝ノ始メ匈奴劉淵自ラ稱シテ帝トナリ燕趙ニ入り遂ニ洛陽ヲ陷シ入レ懷帝ヲ殺セリ晋是ニ滅ブ

(125) 五胡ノ中尤モ有名ナル人二三ヲ舉ケヨ

劉淵氏慕容氏拓跋氏

(126) 王敦ノ反ヲ舉ケヨ

中宗元帝ノ江東ヲ鎮スルヤ王敦征討ヲ總ヘ從弟導政ヲ專ニシ家族皆ヲ顯要ノ位置ニ列シ王敦鎮東大將軍トナリ功ヲ恃ミ益々驕恣ナリ帝之ヲ惡ミ稍ヤ王氏ノ權ヲ抑ユ遂



ニ反シ劉隗司協等ノ軍ヲ敗ル後チ病ニ罹リ死ス是ニ於テ黨徒悉ク平シ

(127) 桓温ノ人トナリ如何

孝宗穆帝ノ時桓温蜀ヲ滅シ殷浩ノ庶人トナルニ及メテ内外ノ大權皆ナ桓温ノ手中ニ歸シ又タ兵ヲ卒ヒテ秦ヲ敗リ又タ燕ヲ伐チ利アラシメテ歸リシヨリ陰ニ不臣ノ志ヲ抱キテ入朝シ奕帝ヲ廢シ太宗簡文帝ヲ立ツ己ニシテ病アリ諷シテ九錫ヲ求メシカ遂ニ得スシテ卒ス温武略アルモ識ニ乏シ末路不平大言ヲ吐ヒテ人ヲ驚カス

(128) 王猛ノ專業如何

桓温ノ秦ヲ伐ツノ時北海ノ人王猛字ハ景略温ノ關ニ入ルト聞キ直ニ行テ謁シ蹇ヲ捫テ以テ天下ノ大勢ヲ論ス温王猛ヲ用ヒント欲ス猛辭ス秦主苻堅王猛ト會シ一見舊知ノ如ク一年五タヒ官ヲ進メ遂ニ丞相トナシ萬事任シテ疑ハス王猛性英達器略アリコレヲ以テ秦大ニ起リ人民悅服ス猛ノ死スルヤ苻堅是ヲ哭シテ曰ク天吾ニ天下ヲ平定セシメサルカト

(129) 秦王苻賢ノ事績ヲ述ヘヨ

苻堅王猛ヲ用ヒ燕及ヒ蜀ヲ滅シ涼代ヲ平定シ東城西夷貢ヲ致スモノ六十二國志滿チ意驕リ遂ニ王猛ノ遺言ヲ顧ミス晋ヲ攻ム群臣亦大ニ諫ムレモ聞カスシテ發シ肥水ニ於テ大敗シ堅流矢ニ中リ狼狽身ヲ以テ逃シ歸ル

(130) 秦王苻堅ノ軍ヲ破リシ晋ノ將ハ誰々ゾ

謝安ノ弟石征討大都督トナリ謝玄前鋒都督トナリ又タ劉牢之ハ秦ノ前鋒ヲ破リ其將ヲ斬レリ

(131) 南北朝トハ何代ヨリ幾年間ヲ云フカ

晋亡ヒ宋起リ其後隨ノ陳ヲ併スルマテ凡ソ百七十年間ヲ稱シテ南北朝ト云フ

(132) 南朝ノ繼續ヲ問フ

南朝ハ晋ヨリ之ヲ宋ニ傳ヘ齊ニ傳ヘ又タ齊ヨリ梁ニ梁ヨリ陳ニ傳ヘリ

(133) 北朝ノ繼續如何

北朝ハ諸國魏ニ併セラレテヨリ魏分レテ西魏東魏ノ二トナリ東魏ハ北齊ニ傳ヘ西魏ハ後周ニ傳ヘ後周北齊ヲ併セテ隋ニ傳ヘ隋陳ヲ滅シ南北合シテ一トナル



(134) 宋ノ高祖武帝ノ人トナリ及ヒ事蹟ヲ略記セヨ

宋ノ高祖武帝姓ヲ劉名ヲ裕ト云フ彭城ノ人ナリ裕生レテ母死シ父京口ニ寓セリ裕年ノ壯ナルニ及ヒ勇邁大志アリ初メ劉牢之カ軍事ニ參タリ嘗テ賊ヲ破リ是レヨリ裕ノ名始メテ知ラレ其後將相ト爲ル二十余年ニシテ桓立ヲ誅シ孫恩盧循ヲ平ケ又々南燕後秦ヲ滅シ卒ニ晋ノ禪ヲ受ケ位ニアルヲ三年ニシテ崩シ建業ニ都セリ

(135) 齊太祖高皇帝ノ人トナリテ問フ

齊ノ太祖高皇帝姓ハ蕭氏名ハ道成蘭陵ノ人ニシテ漢ノ相國何カ後ナリト云ヘリ深沈ニシテ大度アリ博學能文ニシテ宋ノ時ニ軍中ニ在ル久シ時ニ宋王昱驕恣ナルヲ以テ道成袁粲褚淵ト謀リコレヲ廢シ袁粲又々道成ヲ殺サントス褚淵事ヲ道成ニ告ケ粲父子ハ石頭城ニ殺サレ道成相トナリ遂ニ高皇帝ト稱シ宋王ヲ又々廢ス性清儉ニシテ毎ニ曰ク我ヲシテ天下ヲ治ムルヲ十年ナラシメハ黃金ヲシテ土ノ價ト同カラシムヘシト任位四年ニシテ歿セリ

(136) 梁高祖武皇帝ノ事ヲ問フ

姓ハ蕭氏名ハ衍齊ノ陳族ニシテ英達文學アリ始メ襄陽ヲ鎮シ齊ノ將ニ亂ントスルヲ知り密ニ武備ヲ修メ驍勇ノ士ヲ聚ムルヲ万余兄ノ慙死ス衍旗ヲ舉ケ衆ヲ聚メ前キニ時ヘタル材木ヲ以テ艦ヲ作り兵ヲ起シテ一年余遂ニ建康ニ入り齊ノ禪ヲ受ケ帝トナル

(137) 菩薩達磨尊者ハ何帝ノ時支那ニ來リシカ

梁高祖武皇帝ノ時來ル

(138) 魏世祖大武帝ノ事蹟如何

太武帝名ハ熹明元帝ノ子ニシテ明元崩シ即位ス英達ニシテ善ク兵ヲ用ユ戰ヘハ必ス勝チ四方ヲ經營シ北帶ニ雄據ス高麗及ヒ西域諸國皆ナ朝貢セサルナシ然ルニ中常侍宗愛險暴不法多ク太子晃之ヲ惡ミ遂ニ愛ヒテ卒ス太武追悼シテ己マス宗愛懼レテ帝ヲ弒セリ

(139) 魏孝文帝ノ事蹟如何

孝文帝名ハ宏年五歳ニシテ位ニ即ク馮太后多智權數アリ自ラ朝ニ臨ミ制ヲ稱セリ孝



文太后ニ事へ能ク志ニ順フ太后崩シ帝哀毀禮ニ過ク初メ太后帝ノ英明ナルヲ以テ之  
レヲ忌ミ廢セント欲ス大臣ノ諫メニヨリ止ム又々宦官帝ヲ太后ニ譖ス后帝ヲ杖ツ數  
十ナルモ默シテ之ヲ受ケ后崩シテ後ト雖モ敢テ追問スルナシ帝孝ニシテ恭儉政事ニ  
勵精シ民田ヲ均シクシ戸籍ヲ制シ郊廟ノ禮ヲ修メ祀典ヲ正クシ自ラ籍田ニ耕シ樂章  
ヲ定メ言語衣服風俗等總テ改革シ胡語胡服ヲ禁シ洛都ニ遷ル宗室勳舊悅ヒスシテ反  
ヲ謀ルモノアルニ至ル

(140) 魏ノ東西ニ分レタル原因ヲ學ケヨ

詔魏ノ主トナリ母胡氏政ヲ攝ス胡氏淫乱ナリ詔亦々遊戯コレトトシ政ヲ見ス魏政  
茲ニ始メテ乱レ盜賊蜂起シ國用足ラサルニ至ル時ニ高觀大丞相トナリ府ヲ晋陽ニ建  
テ之ニ居ル魏主觀ヲ恐レ晋陽ヲ伐ントス觀兵ヲ擁シ來リ追ル魏主長安ニ奔リ關西大  
都督宇文泰ニ依ル是ヲ西魏トス觀遂ニ清河王ノ子善見ヲ立ツ東魏是レナリ

(141) 宇文泰ノ性行ヲ畧記セヨ

宇文泰ハ文武ノ全才アリテ志氣勇遠ナリ又々謀臣ニハ蘇綽アリ綽ハ制度ヲ整頓シ法

(142) 隋ノ高祖文帝ノ事蹟如何

律ヲ改革シ能ク其力ヲ致シテ内治ヲ計リ武臣ニハ章孝寬アリテ外寇ニ當リ國威ヲ中  
外ニ耀カシ秦亦々兵ヲ用フルニ長シ高觀ノ銳鋒ヲ挫キ魏ノ政ヲ乘リ帝アリト雖モ唯  
々名ノミニシテ實ナク梁主元帝ヲ討チ遂ニ其職大師大冢トナリ恭帝ノ時卒セリ恭帝  
後ニ位ヲ秦ノ世子覺職ニ禪ル

文帝姓ハ楊氏名ハ堅弘農ノ人ニシテ東漢ノ大尉震ノ後裔ナリ父楊忠魏及ヒ周ニ事ヘ  
功ヲ以テ隋公トナリ堅ソノ爵ヲ襲ク嘗テ周人武帝ニ告ケテ曰ク堅反相アリト堅聞テ  
深ク自ラ晦匿ス宣帝ノ弟堅ノ女ハ后トナリ堅ハ大司馬タリ帝淫遊度ナク立テ未タ一  
年ナラサルニ位ヲ靜帝ニ讓ル堅太后ノ父タルヲ以テ政權ヲ握リ自ラ大丞相トナリ尋  
テ禪ヲ受ケ靜帝ヲ封シテ介公トナス堅帝トナリ周ノ諸王ヲ誅鋤シ宇文氏ノ族ヲ夷誅  
シ靜帝亦々後ニ害セラル帝又々陳ノ政刑紊亂スルヲ見コレヲ討チ天下ヲ一統ス帝恭  
儉政事ヲ勤メ百姓ヲ愛撫スルモ詐力ヲ以テ天下ヲ取ル故ニ猜忌ニシテ人ヲ容ルハ、  
能ハス



(143) 隋ノ煬帝ノ事蹟如何

煬帝名ハ廣卽位シテヨリ土木ヲ興シ首トシテ洛陽ノ顯仁宮ヲ營ミ海内ノ奇石異材ヲ求メ通濟渠ヲ開キ長安ノ水ヲ引テ淮ニ達セメ又タ刊溝ヲ開キ江ヲ入レ堤ニ柳ヲ樹ヘ其間離宮四十余所ヲ置ク等帝ノ爲セシ事ハ營造巡遊ニシテ絲竹ヲ執ルモノ一万八千人昏ヨリ且ニ及ヒ終月ニシテ罷ム費用巨萬ナリ又タ征討ヲナセリト雖モ甚ダシキ功功ナシ

(144) 隋煬帝高麗征討ノ狀景ヲ概示セヨ

初メ煬帝高麗王充ヲ徵ス至ラス帝自ラ高麗ヲ征セントシ全國ノ兵ヲ涿郡ニ會ス糧食運搬舳艫相次クフ二百里往還常ニ幾十万人晝夜ヲ分タス兵凡ソ百十三萬余死者多ク百姓困窮シ群盜四方ニ起ル帝遼河ヲ渡リ遼東城ヲ圍ミ克タス諸軍大敗シテ歸ル再ヒ兵ヲ集メ遼東ヲ攻メ又タ克タス次歲再ヒ高麗ヲ征ス王降テ乞フ帝還リ高麗王ヲ徵ス竟ニ來ラス

(145) 南北朝時代ノ邦制如何

晋武帝三國ヲ一統シ天下ヲ十九州トシ百七十三郡ヲ置キシモ陳ノ時四十二州百九郡トナリ北朝宇文周ノ時ハ二百一十一州ト五百八郡アリ隋ノ時郡ヲ廢シ州トセシモ幾クモナク又タ州ヲ改メ郡トセリ

(146) 錢文二年号ヲ鑄ルノ嚆矢ヲ問フ

劉宋ノ世祖錢ヲ鑄ル昔ニ孝建ノ字ヲ記ス錢文二年號ヲ鑄ル是ヲ始メトス

(147) 晋朝時代ノ文學ノ狀況ヲ示セ

晋ノ時ヨリ清談の文學者多ク出テ武帝ノ時世ノ所謂竹林ノ七賢士アリ此等ノ士ハ老莊虛無ノ說ヲ奉シ時事ヲ度外ニ置キ縱酒亂醉シテ以テ自ラ得タリト爲セリ又晋ノ末代陶淵明アリ其詩今尙々噴々タリ

(148) 唐ノ高祖神堯帝ノ事業ヲ畧述セヨ

帝姓ハ李氏名ハ淵隴西成紀ノ人ナリ隋煬帝ノ世弘化ノ留守ト也盜賊四方ニ起ル及ヒ山西河東ノ撫慰大使トナル嘗テ突厥邊ニ寇ス淵命ヲ受ケ之ヲ擊チ利アラス淵ノ次子世民竊ニ大志アリ晋陽ノ宮監裴寂及ヒ晋陽ノ令劉文静ト相結托セリ淵突厥ノ軍ニ克



タサルヲ以テ罪ヲ獲ゾテ恐ル世民直ニ聞ニ乗シテ淵ニ説ク淵遂ニ召募シテ兵ヲ擧ケ諸郡縣ヲ平定シ關中ノ群盜亦タ降ル淵兵ヲ卒テ長安ニ入り恭帝ヲ立テ自ラ大丞相トナリ遂ニ禪ヲ受ケ子ノ建成ヲ太子トシ世民ヲ秦王トナス

(149) 唐太祖文武帝ノ事蹟如何

帝名ハ世民父ノ神堯帝ヲ補ケ諸國ヲ統一シ秦王トナル遂ニ即位ス房玄齡、杜如海、虞世南等ノ謀臣アリテ能ク帝ヲ補佐ス貞觀元年ヨリ大ニ飢饉スル三年ニ至ルモ帝撫慰シ民敢テ怨ムモノナク四年全國大ニ稔シ太平無事ナリ帝奢侈ヲ禁シ即位ノ始メ宮女三千人ヲ放チ又々温顔ヲ以テ群臣ニ接シ能ク諫ムルモノハ賞シテ以テ來ラシム帝武ヲ以テ禍乱ヲ定メ終ニ文德ヲ以テ海内ヲ綏メセリ

支那歴史

(150) 唐ノ文武帝ヲ最モ補佐シタル四五ヲ列記セヨ

杜如海 房玄齡 張蘊古 魏徵 封德彝 無忌 李靖 等其他甚々多シトス

(151) 則天武后ノ亂ヲ問フ

后ハ故ノ荊州都督武士護ノ女ニシテ年十四太宗ノ時召サレテ後宮ニ入り太宗崩シ高

宗帝ノ時遂ニ后トナスコノ時忠義ノ士殺サレ或ハ貶セラル武后帝ノ風眩ヲ病ムヲ以テ國政ニ與カリ專恣ナリ太子忠ヲ廢シ其出ナル弘ヲ立テ次テ又々鸚殺シ其次賢ヲ立テ又々廢シテ其次哲ヲ立テ高宗崩シ哲即位ス武后又々廢シ其弟預王旦ヲ立テシモ幾何クモナク再ヒ廢シ遂ニ自ラ帝トナル國ヲ周ト號シ姓ヲ武ト改メ自ラ聖ト名ケ遂ニ唐ノ宗室ヲ殺セリ武后人心ノ服セサルヲ知り酷刑ヲ用ヒタルモ能ク人ヲ用ヒ將相最モ人ヲ得タリ狄仁傑、姚崇、魏元忠、婁師德皆ナ名相ナリ然レモ遂ニ仁傑ノ諫メニヨリ武后後チ退キ唐ノ世トナリ國號ヲ復セリ武后ノ周ト稱セシ間十有六年ナリ

(152) 韋后ノ亂トハ如何

中宗皇帝始メ武后ノタメ房州ニ遷サレ自殺セントス韋妃之ヲ止ム即位スルニ及ヒ韋妃ヲシテ共ニ朝政ヲ與カリ聞シム韋后終ニ驕リ武三思ト通シ遂ニ三思ト政ヲ議ス后其ノ淫姦ノ露ハレソフヲ恐レ安樂公主ト謀リ帝ヲ毒殺シ温王重茂ヲ立テ自ラ攝政ス相王ノ子臨淄王隆基兵ヲ擧ケ韋后及ヒ安樂公ヲ斬リ其黨ヲ誅シ重茂ヲ廢シ相王ヲ奉シテ立ツ睿宗皇帝ナリトスコレテ韋后ノ亂トス

支那歴史



(153) 安祿山ノ反ヲ畧示セヨ

安祿山ハ本ト營州ノ雜胡ナリ初名ハ阿摩性狡黠驍勇ナリ玄宗帝大ニ任用シ平盧ノ節度使トナリ尋テ東平郡王トナリ河北道ノ採訪所置使ヲ兼ヌ祿山楊貴妃ノ兒トナリ遂ニ之ニ通ス李林甫巧ニ帝ノ意ヲ迎ヘ言路ヲ杜絶シ聰明ヲ掩蔽ス帝悟ラス祿山唐ヲ輕ノスルノ志ヲ起シ范陽ニ歸リ壯士ヲ養フ時ニ李林甫死シ國忠相トナリ祿山ノ勢力ヲ重カラシムコヽニ於テ祿山遂ニ反ス直ニ進ンテ東京ヲ陷レ大燕皇帝ト潛稱ス河北ノ地賊ノ有トナル平原太守顏真卿常山太守顏杲卿並ニ兵ヲ擧ク賊將史思明常山ヲ圍ミ顏杲ヲ執ヘ洛陽ニ送ル顏杲敢テ屈スルコトナク罵詈訶ヲ死ス朔方節度使郭子儀河北節度使李光弼共ニ思明ノ軍ヲ破リ河北ヲ復ス已ニシテ賊長安ニ入り帝出奔シ蜀ニ行ク將士國忠ヲ殺シ又々貴妃ヲ殺シ太子ヲ留メ賊ヲ討タシム祿山遂ニ子ノ慶緒ノ爲メ弑セラレ慶緒亦々思明ノタメニ殺サレ思明再ヒ子長義ニ殺サルヽニ至リ郭子儀張巡許遠等皆ヲ賊ヲ破リ帝及ヒ上皇共ニ西京ニ歸ル

(154) 唐ノ時河北朝命ニ抗スルニ至リシ原因ヲ問フ

代宗帝立チ兵革ヲ厭ヒ無事ヲ苟冀スルヨリ賊將薛嵩 田承嗣 李懷仙 等ヲ河北ノ節度使トスコヽニ於テ諸鎮互ニ相黨援ヲナシ河北ノ地朝命ニ抗スルニ至ル

(155) 唐德宗帝ノ税法改革ノ一ヲ畧記セヨ

玄宗ノ末代ヨリ肅宗ノ時ニ當リ兵起リ賦歛迫趣シテ取辨シ常則ナシ德宗ニ至リ楊炎ノ建議ヲ納レ先ツ州縣毎歲官吏ノ俸給及ヒ帝室供貢ノ數ヲ計リ戸ハ本籍寄留ヲ論セス現居ヲ以テ簿ヲ作り人ハ老少トナク貧富ニヨリ等ヲ立テ行商ヲナスモノハ其ノ在ル所ノ州縣三十ノ一ヲ稅シ居人ノ稅ハ秋夏ニ兩徵シ租庸調雜徭皆ヲ悉ク省ケリ

(156) 唐憲宗帝ノ時佛骨京師ニ入りシ顛末ヲ問フ

憲宗帝中使吐英奇ヲシテ鳳翔府法雲寺ノ釋迦文物ノ指骨ヲ迎ヘシメ帝安福門ニ御シ迎ヘ拜ス禁中ニ止メ供養スル三月諸寺ニ歷送ス王公士民瞻奉捨施シ唯々及ハサラソコトヲ恐ル刑部侍郎韓愈表ヲ上リテ陳諫ス帝大ニ怒リ愈テ貶シテ潮州ノ刺史トス後チ武宗帝ニ至リ全國佛寺ヲ毀チ僧尼ヲ勒シ還俗セシム

(157) 唐室宦官ノ專恣及ヒ其結末如何



憲宗帝宦官陳弘志ノタメニ弒セラレ敬宗帝亦々宦者劉克明ノタメ宴席ニ於テ弒セラレ文宗帝ニ至リ勢益々甚ク天子ノ廢立ツノ掌裡ニアリ劉蕡大ニ宦官ノ害毒ヲ極論ス考官コレニ服スルモ宦官ヲ恐レテ取ラス後チ宋申錫宦官ヲ殺サントシ克マス文宗帝亦々李訓ト宦官ヲ誅セントシ克ツ能ハス反テ宦官大臣ヲ殺セリ文宗及ヒ武宗帝ノ時宦官ニ仇士良ナルモノアリ威權ヲ弄シ天子ヲ愚弄シ全國ノ皆ヲ掌握ス而シテ宣宗懿宗 僖宗ノ諸帝ハ皆ナ宦官ノ擁立スル所ニシテ僖宗帝ノ蜀ニ出奔スルヤ宦官田令孜帝ヲ挾メテ權已レヨリ出テ照宗帝亦々宦官ニ立ラレ韓全誨等帝ヲ危キニ致シ遂ニ身殺サレ幼弱三十人ヲ除クノ外總テ朱全忠ノ爲メニ夷族セラレ

(158) 唐末ノ時諸洲ニ割據シタルモノヲ列舉セヨ

- 李克用ハ晋ニ王トナリ
- 李茂貞岐ニ王トナリ
- 楊行密吳王ト爲テ淮南ニ王トナリ
- 王建蜀ニ王トナリ

(159) 回教耶蘇教ノ支那ニ入りシ時代ヲ問フ

回教及ヒ耶蘇教ノ支那ニ入りシハ唐ノ時代ニシテ耶蘇教ハ實ニ唐朝ノ初メトス羅馬加とりつく派ねととりあん及ヒこんどたんちノ僧官ハ其教ヲ傳ヘンタメ專ラ從事セシカ如シトス

(160) 唐ノ時官制如何

唐ニハ大師大傅大保ノ職アリコレヲ三師ト云ヒ皇帝及ヒ皇太子ヲ訓教スルノ官トス又々大尉司徒司空ヲ三公ト云ヒ樞機ニ參與スルモノトス尙書省ニハ六部ノ長官アリ其他各省ニ長官屬官等アリ大ニ備ハル

(161) 唐朝ノ文學ノ景況ヲ畧記セヨ



文學ノ進歩實ニ甚ク太宗亦大ニ獎勵シ弘文館ヲ置キ書二十余万卷ヲ貯ヘ文學ノ士ヲ精選シコレニ與ラシメ四方ノ學者京師ニ集ルモノ夥多シク講筵ニ列スルモノ八千余人高麗百濟 吐蕃 新羅 等ノ酋長皆子弟ヲ遣ハシ學ハシム又々當時ノ文士ニハ韓退之 柳子厚 李太白 小陵 李翱 陸贄 元結 張籍 王維 李欣 高適 元微之 白居易 杜子美 等輩出セリ

(162) 五代ト稱スル國名及ヒ其祖主ノ名ヲ列示セヨ

後梁 太祖高帝朱全忠ソノ祖主タリ  
後唐 莊宗帝存勗ソノ祖主タリ  
後晋 高祖皇帝姓ハ石氏名ヲ敬瑭  
後漢 姓ハ劉氏初ノ名ヲ知遠後チ暱ト改ム  
後周 郭氏名ヲ威トス

(163) 後梁太祖高帝ノ性行ヲ問フ

帝初ノ名ハ温姓ヲ朱氏陽山ノ人ナリ幼時ヨリ無賴盜ヲナス唐ニ降り名ヲ全忠ト賜ハ

(164) 宋ノ建國ノ始メ首要ナル歴史ヲ畧述セヨ

レ州郡ヲ攻併シ諸鎮ノ間ニ横行ス遂ニ唐ヲ篡シ梁ト改メ幾ハクモナク病アリ假子友文ヲ立ントシ其子友珪ノ爲メニ弑セラル  
宋ノ太祖趙匡胤ハ涿ノ人ニシテ父弘殷ハ洛陽ノ禁衛將校トナリ甲馬營ニアルノ時匡胤生レ少ホシテ辛文悅ニ從テ學ヒ周ノ世宗ノ時軍政ヲ掌ル六年許士卒悅服シ數々征伐ニ赴キ功アリ後チ世宗殂シ恭帝幼ナリ匡胤ヲシテ契丹ヲ禦カシム途ニ於テ將士相聚リ匡胤ヲ推戴シ被スルニ黃袍ヲ以テシ遂ニ還テ匡胤周ノ禪ヲ受ケ國ヲ宋ト號シ汴ニ都ス是ヨリ石守信曹彬等ヲ將トシ趙普ヲ相トシ藩鎮ノ強大ヲ削平シ政法制度ヲ改革シ租稅ヲ寬フシ貢獻ヲ却ケ官吏ヲ精選シ國內大ニ治マリ唐末五代以來ノ積弊ヲ除ケ

(165) 宋太祖ノ時ノ名相ヲ列記セヨ

趙普 呂蒙正 薛居正 呂端 沈淪 張齊賢 宋琪 李昉 等トス

(166) 澶淵ノ役ヲ略記セヨ



唐眞宗帝ノ時契丹主隆緒ナルモノ大舉入寇ス中外震駭シ帝ニ蜀或ハ江南ニ幸セラレ  
ソフヲ乞フ帝宰相寇準ニ問フ之ヲ拒ム遂ニ親征ヲ議定シ眞宗駕ヲ韋城ニ駐メ衛南ニ  
行ク契丹ノ爲メニ圍マル時ニ會々契丹ノ捷覽弩ニ中ツテ死シ勢大ニ挫折ス已ニシテ  
書ヲ奉シ盟ハンフヲ乞フ準從ハス其ヲシテ臣ト稱シ獻州ヲ獻セシメントス然ルニ帝  
遂ニ其請ヲ許シ絹二十万匹銀十万兩ヲ歲賂トシ和議ナル

(167) 王安石ノ政略ヲ概述セヨ

神宗帝ノ時王安石翰林學士トナリ入府ス帝英明有爲ノ志ヲ抱ケリ深ク安石ヲ信ソシ  
安石亦タ物論ヲ顧ミス銳意新法ヲ行フ其主ナルモノヲ青苗ノ法均輸ノ法預賣ノ法保  
甲ノ法募役ノ法市易ノ法保馬ノ法方田、均稅、戶馬等ノ諸法トス然リ而シテコレ等  
ノ一人民ノ欲スル所ニアラスシテ又タ朝吏或ハ安石ヲ姦臣ナリト論シ稍貶罷サレシ  
モノモアリシカ時ニ大旱ス征歛苛急流民道ニ塞カル帝稍々安石ヲ疑フ安石悅ヒスシ  
テ去リ後再ヒ相トナル二年終ニ江寧府ノ判トナリ復タ用ヒラレス

(168) 王安石ノ新法ヲ非難セシモノハ誰々ナルカ

諫院范純仁 檢詳文蘇轍 右正言孫覺 御史裏行程顛 中丞呂公著 裏行張戢 直  
史館蘇軾 台諫劉琦 參政唐介 其ノ他司馬光 歐陽修 富弼等トス

(169) 宋徽宗帝ノ天政ヲ示セ

徽宗帝即位シ蔡京ヲ相トス蔡京帝ニ勸ムルニ奢侈ヲ以テシ盛ソニ土木ヲ興シ内苑皇  
居ヲ營造シ又タ蔡京ノ子收ノ婦宮中ニ出入スルニ及ヒ收亦タ大ニ用ヒラレ父子ノ權  
勢目ヲ相軌ルニ至ル帝收ヲ寵シ蔡京ノ子弟親戚ヲ尊クシ朝廷皆ヲ蔡京父子ノ黨トナ  
レリ宴遊コレ事トシ政務ヲ怠ル帝モ亦タ時々都市ノ酒肆妓樓ニ微行シ朝政大ニ亂レ  
天下ノ資財ヲ竭ス

(170) 宋徽宗帝ノ時金人入寇ス其勢力及景況如何

徽宗帝ノ時女眞ノ阿骨打立ツ沈毅大志アリ遼ニ反シ國ヲ金ト號ス遼ヲ伐チ大勝シ直  
ニ餘勢ヲ以テ宋ノ復セシ燕山ヲ陷レ宋將郭藥師降ル金兵長驅シ大原ヲ圍ム時ニ河北  
山東凶歲ニシテ飢民並起シテ盜ヲナスモノ數万人ニ至ルニ際シ宋大ニ困シメリ宋朝  
遂ニ地ヲ割キ和ヲ議セントス大常少卿李綱不可トス金人亦タ和ヲ議ス李綱堅ク争フ



ヲ納レズ遂ニ内努及ヒ士民ノ金帛ヲ借り之ニ與ヘ肅王并ニ張邦昌ヲ質トス金兵北去  
ス數月ニシテ金兵復タ至ル李綱時ニ罷メラル金兵西京ヲ陷レ京城ヲ迫圍シ遂ニ帝金  
營ニ行キ降ヲ乞フ金コ、ニ於テ張邦昌ヲ立テ帝トシニ帝及ヒ后妃太子宗戚并ニ金帛  
寶玩等ニ至ルマテ尽ク括索シテ北ニ去レリ

(171) 南宗ノ興起セシ所以ヲ問フ

金人ノ后妃宗戚ヲ載セテ北去セシ時構王及ヒ孟太后ハ嘗テ廢セラレタルカ故ニ從行  
セニ是ニ於テ構ハ應天府ニ即位シ高宗皇帝ト云ヒ尋テ江南ニ都シ又タ臨安ニ徙リ南  
部ヲ有チテ國ヲ南宋ト號ス

(172) 南宗高宗帝ノ金ニ對セシ狀況如何

帝ハ唯タ南部ヲ有チ北部ハ總テ金ニ歸セリ然レモ帝ノハ金人大舉シ州府ヲ陷ルモ志  
ヲ得サリキ然ルニ秦檜ヲ任用スルニ至リ檜大ニ國ヲ誤マレリ

(173) 秦檜ノ性行如何

秦檜相トナリ王倫ヲシテ金ニ行キ和議ヲ決セシム編修官胡銓上疏シテ痛論以テソノ

(174) 南宗ノ時編修官胡銓ノ上疏アリ摘記セヨ

非ヲ云フ爲メニ廣州ニ貶セラル時ニ岳飛屢々金兵ヲ破リ金ノ威ノ振フナシ然レモ秦  
檜ハ唯タ和ヲコレ主トシ岳飛ヲ招還シ遂ニ岳飛ヲ殺セリソノ他和議ヲ非トシテ罷貶  
或ハ殺戮サレタルモノ甚タ多シ秦檜ノアルアリテ遂ニ金ヲシテ威ヲ專ラニセシメタ  
リ有志ノ士扼腕シテ嘆セリ

編修官胡銓高宗皇帝ニ上疏シテ和議ノ非ナルヲ痛論ス又タ當時ノ國勢ヲ見ルニ足ル  
ソノ略ニ曰クモシ陛下下一タヒ膝ヲ屈セハ則チ祖宗廟社ノ靈盡ク夷狄ニ汚レ祖宗ノ赤  
子盡ク左衽トナリ朝廷ノ宰執皆陪臣タラン(中略)夫レ三尺ノ童子知ノ無キモ犬豕ヲ  
拜セシメハ則チ佛然トシテ怒ラン堂々タル天朝相率テ而シテ犬豕ヲ拜セハ曾テ童稚  
ノ羞ナケンヤ奉使王倫ハ北使ヲ誘致シ江南ニ招諭スルヲ名トシ我ヲ臣妻ニセント欲  
ス執政孫近ハ秦檜ニ附會ス(略)乞フ倫、檜、近三人ノ頭ヲ斬リ之ヲ藪街ニ竿シ然ル  
後其使ヲ羈シ無禮ヲ責メ問罪ノ師ヲ興サンニハ三軍ノ士戰ハスシテ氣自ラ倍セン云  
々ト遂ニ韶州ニ貶セラル



支那歴史

(175)

秦檜何故ニ岳飛ヲ殺セシカ

岳飛兵ヲ京西ニ出シ金人ヲ敗ル然ルニ秦檜所以テク飛死セサレハ終ニ和議ヲ梗シ己レ亦タ必ス禍ニ及ハント遂ニ詔ヲ矯メ飛ヲ殺セリ

(176)

南北宋共ニ休戦セシ理由ヲ問フ

南宋孝宗帝仁孝回復ノ志アルモ輔佐其ノ人ナク後ニ金ト和シ敵國ノ乱ヲ正シ叔姪ノ國トシ歳貢ヲ歳幣トナシ十萬ノ數ヲ減ス金主雍モ亦タ賢明仁恕ナリコ、ニ於テ南北互ニ民ト共ニ休息シ人々足リ家々給スルニ至ル

(177)

南宋滅亡ノ原因ヲ問フ

南宋ノ滅亡ハ實ニ元ト釁ヲ開キシニミル而シテソノ所以ハ初メ南宋ト元ト共ニ合シテ金ヲ滅セシニ南宋ハ金ノタメニ奪ハレタル中國ノ故地ヲ復セメントスルニ起ル

(178)

南宋ノ末國ヲ誤リシ權臣ハ誰レソ且ツ其性行ヲ示セ

理宗帝ノ牋史彌遠ヲ信フシ國政ヲ委ス遠專權國ヲ亂ス又タ賈似道ナルモノアリ元忽必烈ノ爲メニ圍マレ私ニ臣トナリ努ヲ納レ忽必烈圍ヲ解キ去ル賈似道直ニ和ヲ乞ヒ

支那歴史

(179)

南宗ハ幾代何年ニシテ亡ヒシカ

高宗立チ南宗ト號セシヨリ昷帝元ノタメニ討タレ海ニ没セシマテ九世百五十三年臣ト稱セシナ匿シ諸道ノ大捷ヲ奏ス帝大ニ嘉ミス帝崩シ度宗帝ノ牋賈似道ヲ大師トシ稱シテ師臣ト云ヒ朝臣皆ナ周公ト稱セリ賈似道宴樂ニノミ耽リ邊事ヲ云フモノアレハ直ニ貶斥ス宋國ヲ誤リタルハ實ニ賈似道ナリトス

(180)

宗ノ官制如何

宋ハ皆テ唐朝ノ制ヲ襲用セリ然レモ三師三公ヲ置カス中書ヲ政事堂ト樞密府トノ二トシ相對シテ大政ヲ掌レリ

(181)

宋朝ノ賦役及ヒ租稅如何

宋朝ハ商賈ノ征稅ヲ寬ニシ苛征重斂ノ弊ヲ除キ版籍民間ノ戶口、田籍、家産、戶鈔等ノ法ヲ設ケ完備ヲ極ム

(182)

宋朝文學ノ景況ヲ問フ

宋朝ハ文運隆盛ヲ極メ五代ニ中絶シタルヲ挽回シタルハ實ニ歐陽修ナリ又タ蘇洵及



ヒ其子蘇軾并ニ蘇轍アリ王安石、司馬光、文天祥、謝枋得、曾鞏、范祖禹等皆ナ一世ヲ  
動カシタルノ文士トス又々程顥、程頤、楊時、用惇、朱熹、陸象山、呂祖謙、胡澹菴等ノ  
大儒アリ文詩又々大ニ見ルベキモノアリ

第五編

近世史

(183) 元建國ニ於ケル主要ノ歴史ヲ略述セヨ

元帝ノ祖ハ世々蒙古部ノ長タリ速該ノ子「からくは」ナルモノヲ師トシ兵法ヲ學  
ヒ長スルニ及ヒ諸部落ヲ併吞シ初メテ強大トナリ韃靼諸國悉ク征服ス其子鉄木眞沈  
深大量アリ民律兵制ヲ定メ宗教ノ自由ヲ許シ兵ヲ用ヒル「神」ノ如ク亞細亞ノ内地ヨ  
リ歐羅巴ノ東南部ニ至リ「かるか畔」ニ露西亞兵ヲ破リ「ぶたか」ヲ取リ「べるしや」  
ヲ征シ黑海裏海中間ノ諸國ヲ攻メ東印度ヲ征定シ國ヲ滅スル四十余自ラ帝ト稱セリ  
其子「をこたい」即位シ太宗トス能ク父鉄木眞ノ遺詔ヲ守リ自ラ將トナリ金ヲ伐チ又  
々連年兵ヲ出シテ宋ヲ攻メ忽必烈立ツニ及ヒ遂ニ宋ヲ滅シ全國ヲ一統ス

支那歴史

(184) 元ノ忽必烈ノ人トナリヲ問フ

忽必烈ハ太祖鉄木眞ノ子「とーるい」ノ次子ニシテ英明武勇能ク人ヲ用ヒ其才ヲ盡サ  
シム智勇ノ將士ヲ遣ハシ遂ニ厓山ノ戰ヒニ宋ヲ平ラケ大ニ爲サントスルノ志アリ

(185) 元ノ忽必烈ヲ輔佐シタル名將ヲ列示セヨ

伯顔、史天澤、張弘範、杜世忠、等トス

(186) 元我カ日本帝國ニ入寇シタル顛末ヲ畧記セヨ

元ノ世祖忽必烈屢々使ヲ我カ日本帝國ニ遣ハシ親和交通ヲ求ム時ニ北條時宗鎌倉執  
權タリ元使ヲ斬ル再三遂ニ後宇多天皇ノ弘安四年五月元大舉シテ來寇ス其軍三万余  
戰艦九百余艘轉戰シテ博多港ニ至リ大風雨ノタメ戰艦破碎シ我兵亦タ力戰大ニ元軍  
ヲ破ル溺死スルモノ一万三千五百余元史ニ依レハ生還セシモノ纔ニ三人ニシテ忽必  
烈ノ銳鋒モ日本帝國ノタメニ挫折セラレ再舉スル能ハサルニ至ル

(187) 元再舉日本帝國ヲ撃タントシ罷メタルハ如何ナル故ソ

元ノ忽必烈大敗セシヲ憤リ再ヒ高麗王暉及ヒ阿答海ニ命シ師ヲ卒ヒ日本帝國ヲ撃タ



シメントス國民厭苦スルニモ關セス船五百余艘ヲ造ル時ニ占城交趾ノ征討アリテ敗績シ盜賊蜂起シ國大ニ擾亂ス吏部尙書劉宣コレヲ殷鑑トナシ苦諫ス忽必烈遂ニソノ諫ヲ入ルコヽニ於テ再舉スルナシ

(188) 元ト國号ヲ稱セシハ我日本國ノ何年ノ時ナルカ  
文永八年十二月ナリトス

(199) 忽必烈ノ時ノ版圖ヲ舉ケヨ

中原以外天山南路ヨリ「ペルシヤ」小亞細亞及ヒ地中海等ソノ版圖ニシテ縮甸、布哇及ヒ安南ハ歲貢ヲナセリ支那版圖ノ最モ大ナリシハ實ニコノ時ニアリトス

(190) 元朝最モ隆盛ノ時ハ何帝ナルカ

仁宗帝ノ時ニシテ民ヲ愛撫シ勵精治ヲ爲セリ

(191) 元末ノ景狀ヲ略記セヨ

元建國ヨリ以來概テ庸主ナク無事ニシテ上下泰平ニ慣レ末時ニ至リ人主漸ク政務ヲ惰リ天順皇帝時權臣專ラナリ燕帖木兒反シテ兵ヲ舉ケ懷王圖帖睦爾ヲ帝トナシ帝崩

支那歴史

(192) 明ノ天下ヲ一統シタル顛末ヲ畧示セヨ

テ順帝ニ至リ佛ニ迷信シ伯顔ヲ大師右丞相トス顔權ヲ專ラニシ遂ニ皇后諸王及ヒ唐其勢等ヲ殺シ遂ニ脫々ニ黜ケラレ脱々丞相トナル四方盜賊興起スルヲ以テ脱々コレヲ討チ克ツ能ハス次テ郭子興 陳友諒 張士誠等ノ英士起リ明ノ太祖元璋郭子興ノ客將ヲ以テ中原ヲ一統セリ

明太祖朱元璋ハ濠州ノ人ナリ年十七孤トナリ身ヲ寺院ニ託セリ後チ郭子興ニ從テ起リ江州ヲ下シ和陽ヲ平ラケ馮國用ノ謀ヲ用ヒ金陵ヲ取リコヽニ於テ即位シ明ト號ス時ニ陳友諒自ラ帝ト稱シ國ヲ漢ト號シ勢甚々熾ンナリ遂ニ元璋ト鄱陽湖ニ戰ヒ敗死ス元璋進ンテ北中原ヲ伐タシム元コレヲ防ク能ハスシテ亡ベリコヽニ於テ天下ヲ一統ス

(193) 明太祖朱元璋ノ人トナリ如何

太祖英武明達能ク璋州ヲ平定シ帝業ヲナシ禮樂制度ヲ具備スト雖モ猜忌甚ダシク文武ノ士其終ヲ能クセシモノ少シ



(194) 明ノキ靖難ノ禍アリソノ概勢ヲ問フ

明太祖崩シ建文帝立ツ時ニ諸王叔父ノ尊ニ憑リ不遜ノヲ多シ齊泰黃子澄漢七國ヲ討平スルヲ進メ遂ニ周王ヲ廢シ齊王湘王共ニ謀反ヲ以テ誅セラル諸王畏懼ス時ニ燕王國ニ據リ兵ヲ擧ケ軍ヲ靖難ト號シ君側ヲ清ムルヲ名トシ齊泰黃子澄漢ヲ誅シ遂ニ進ンテ京師ヲ犯ス建文帝從者ト出奔シ燕王自立シ帝トナル成祖文帝コレナリ方孝孺執ヘラル帝筆ヲ援リ即位ノ詔ヲ草セシム方孝孺直ニ燕賊篡位ト大書シ屈セス帝大怒命シテ九族ヲ夷セシム親故坐シテ死スルモノ八百余人又々兵部尙書齊泰大嘗卿黃子澄等數百人皆殺サレソノ慘狀未ダ嘗テ有ラサル所ナリ

(195) 明成祖文帝韃靼ヲ親征セシ原因如何

韃靼ノ知院あるたい可汗鬼力赤ヲ殺シ元ノ族タル本雅失里ヲ迎ヘ可汗トス成祖文帝書ヲ以テ諭ス開カス又々給事中郭驥ヲ遣リ之ヲ責ム本雅失里之ヲ殺スコレ文帝親征ノ原因ナリ

(196) 明成祖文帝ノ外征ヲ畧記セヨ

文帝張輔ヲ遣シ安南ヲ討タシメ大ニコレヲ破リ又々親ヲ將トシテ韃靼ヲ征シ互刺ヲ征シ大ニコレニ勝チ又々兀良哈ヲ征シ遂ニ北征シ道ニシテ崩セリ帝屢々外征シ中國多事ナリ

(197) 明成祖文帝ノキ妖婦ノ亂アリ其景况如何

妖婦唐賽兒ナルモノ幻術ヲ行ヒ衆ヲ聚メ亂ヲナシ莒卽墨ヲ降シ安唐ヲ圍ム是ニ於テ山東震駭ス成祖兵ヲ遣ハシ斬滅スルヲ六千余人ニ至ル

(198) 明有脚城ヲ作ル其製如何

每車長サ一丈五尺高サ六尺トシ外部ハ鉄ヲ以テ張り其内ニ人ヲ藏シ上ニ小窓ヲ設ケ下ニ銃眼ヲ開キ車千輛ヲ以テ周圍相比シ砲箭傷クルヲ能ハサラシメ敵來レハ砲箭ヲ發シ去レハ直ニ移シテ之ヲ逐フ

(199) 豊臣秀吉朝鮮ヲ伐ツノキ明國ノ關係シタル情况如何

明神宗帝ノ時日本ノ關白豊臣秀吉朝鮮ヲ征討ス朝鮮國王李昭義州ニ奔リ援ヲ明ニ乞フ神宗帝則チ遼陽ノ兵ヲ發シ祖承訓ヲシテ援ケシム小西行長コレヲ平壤ニ破ル李如



松再ヒ來リ平壤ヲ圍ミ陷レ勝ニ乘シ輕出シ復タ大敗シ遂ニ使ヲ小西行長ノ營ニ遣シ和ヲ乞フ後チ再ヒ豊臣秀吉朝鮮ヲ征スルノ時帝劉綎ヲ遣シ朝鮮ヲ援ク連戰歲余利アラズ會々豊臣秀吉卒シ遺命ニヨリ日本ノ將帥ヲ班スニ至リテ止ム朝鮮人及ヒ支那人等日本將士ヲ畏怖スル今日ニ至リテ尙ホ止マサルヲ見レバ當時ノ狀況實ニ知ルニ足ル

(200) 明ノキ東林黨議トハ何ソ

吏部郎中顧成憲ナルモノ帝ニ忤ヒ籍ヲ削ラレ歸リテ學ヲ東林書院ニ講ス學士ノ輩氣節ヲ負ヒ屢々時政ヲ議シ政府ニ抗スコレヨリ始マル

(201) 明ノキ魏忠賢ナルモノアリ其行如何

喜宗帝ノキ大監魏忠賢寵アリ始メ帝ノ立ツヤ王安ハ諸大臣ト同シク顧命ヲ受ケ忠賢ノ專權ナルヲ見コレテ懲サントシ反テ忠賢ノタメニ殺サル忠賢益々橫恣ニシテ乘輿ニ僭擬シ皇妃ト雖モ已レニ協ハサルモノハ皆コレヲ殺ス工部郎中萬燦忠賢ノ罪ヲ抗疏ス忠賢直ニ詔ヲ矯メ之ヲ殺ス時ニ憲成 鄒元標 趙南星 各書院ヲ開キ學ヲ講ス

(202) 明ノ李自成ノ反チ間フ

海内景附シ時政ヲ諷論ス是レヲ以テ天下ノ講學書院ヲ毀チ其黨ヲ獄ニ下セリ毅宗帝立ツニ及ヒ忠賢ノ罪ヲ云フ忠賢自殺ス

毅宗帝ノ時年餓ヘ盜賊起ル安塞ノ流賊高迎祥自テ闖王ト稱シ王嘉胤亦タ乱チ唱ヘリ陝西ノ李自成高迎祥ニ賴ル後チ推サレテ闖王トナリ洛陽ヲ陷レ西安ニ於テ僭号シ國ヲ順ト稱シ京城ニ迫ル毅宗帝遂ニ萬歲山ニ登リ自縊シテ崩ス後チ李自成亦タ兵ニ苦シメテレ勢挫ケ村民ノ爲メニ殺サルコノ時ニ當リ清兵乘シテ深ク入り北京ニ都シ明ノ諸將能ク拒戰セシト雖モ清兵尽ク討平セリ

(203) 清建國以前主要ナル歴史ヲ畧述セヨ

清ノ祖先ハ韃靼ヨリ起リ遼金ノ末ニ當リ長白山ノ東ニ生ル姓ヲ愛親覺羅國號ヲ滿州ト云フ歷傳シテ明神宗帝ノキニ至リ奴兒哈赤ナルモノ能ク兵ヲ用ヒ紛亂セル諸部落ヲ攻メ峰起セル英雄ト戰ヒ祖父ノ明ニ功アリシヲ以テ明ノ都督トナサレ其威日ニ熾シニ遂ニ國ヲ後金ト改メ帝ト稱シ諸部ヲ征平シ名東北ニ振フ卒シテ其第八子太極位



チ繼キ國號ヲ清ト改稱シ屢々明兵ヲ破リ朝鮮ヲ降シ其子福臨立ツ年甫メテ六歲叔父和碩屠親王多爾袞國政ヲ攝ス是レヨリ前キ明大ニ衰頽シ李自成兵ヲ擧ケ四方ヲ剽掠セリ明ノ吳三桂ナルモノ清ニ降り共ニ李自成ヲ討テ之ヲ破リ後遂ニ明ヲ討ツ明帝由榔緬甸ニ亡ク清將吳三桂等コレヲ陷レ帝ヲ執フ明ノ遺臣鄭成功義氣アリ恢復ヲ謀リ事ナラス台灣ニ走リ以テ清ニ抗セシモ素志ヲ遂クル能ハスシテ死セリ清ハ北京ニ都シ明ニ代テ天下ヲ一統ス

(204) 清ノキ吳三桂ノ反アレソノ其大畧ヲ述ヘヨ

吳三桂ハ明ノ將ナリシモ後清ニ降りソノ將トナリ功アリ清海内ヲ一統ス時ニ吳三桂雲南四川貴州ニ據リ明毅宗帝ノ第三子ヲ擁シ自ラ天下都督詔討兵馬大元帥トナリ兵ヲ擧ケ反ス沈州 濃州 長砂ヲ陷ル是ノ時靖南王耿精忠モ亦反セリ吳三桂兵ヲ分チ諸州ヲ攻メ陝西ノ王輔臣コレニ應シ諸州ニ蜂起シテ三桂ニ應スルモノ甚々多シ吳三桂勢威大ニ震ヒ國ヲ大周ト號セリ然レモ遂ニ病ノタメ死シ悉ク平ラケ

(205) 清中國ヲ一定シ著異ナル制度ニ國民ヲ從ハシメントセリ其ノ制度ハ

何ソ

清天下ヲ一統スルニ及ヒ中國ノ民ヲシテ剃頭辮髮セシメ又々滿州服ヲ着セシムルノ制トス而シテコノ令出テシモ皆ナ遂巡シテ爲スモノナシコ、ニ於テ嚴令シ布令到達ノ日ヨリ十日ヲ限リ必ス爲スベキヲ命ス

(206) 清ノ聖祖露西亞ト境界ヲ議定セシ顛末如何

さいべりわ人初メ黑龍江城ニ據レリ清兵來リ圍ム死守シテ禦ク時ニ荷蘭公使書ヲ魯庭ニ送ル魯明年ソノ兵ヲ撤セシメ使ヲ派シ和議シ黑龍江西岸ニ五體ノ文ヲ以テ會議七條ヲ勒シタル石ヲ建テコレヲ以テ境界トス

(207) 安南ニ於テ英國船ヲ討撃シタル顛末ヲ問フ

初メ安南ニ於テハ鴉片烟ヲ喫スルフト天主教ヲ信奉スルフトヲ嚴禁ス時ニ英將元印度ニアルモノ十余艦ヲ率井富良江ニ入ル安南人コレヲ知リ尽ク船ヲ藏シ遠ク人ナキカ如クシ英國艦ノ深入スルヲ待チ夜下流ヨリ風ニ乘シテ火攻ス英艦七双爲メニ燒カ



(208)

鴉片戦争ノ概况ヲ問フ

英國ノ商阿片烟ヲ輸入スルノ耗害スルヲ以テ屢々嚴禁スレモ止マズ而廣ノ總督林則徐ヲシテ英商ノ持スル鴉片ヲ燒ク數千函後チ禁網稍々弛ミ數万函ヲ販賣スルニ至ル是ニ於テ再ヒコレヲ燒キ且ツ英國商人トノ貿易ヲ禁止ス英國遂ニ兵ヲ發シ廣東ヲ撃チ香港ヲ攻メ舟山ヲ陷レ浙東及ヒ寧波ヲ攻圍シ英兵進ミ定海ヲ取り乍浦ヲ陷レ吳淞ヲ圍ミ鎮江亦タ陷ル清竟ニ抗スヘカラサルヲ知り償金數十萬ト香港ノ地ト英國ニ與ヘ和議成リ廣東 厦門 福州 寧波 上海 ノ五港ヲ開キ英國ノ互市ヲ許セリ

(209)

長髮賊ノ亂ヲ畧記セヨ

宣宗帝ノ道光三十年廣東花縣ノ洪秀全自ラ天主教ノ教主トナリ愚民ヲ勸誘シ鴉片戰爭後ノ紊亂ニ乘シ兵ヲ擧ケ朱明ヲ恢復スルヲ名トス勢頗ル猖獗ナリ宣宗帝崩シ文宗帝立ツニ當リ廣東地方ヲ掠シ廣西諸城ヲ陷レ自ラ天王ト稱シ金陵ヲ陷レ諸州ヲ討チ數十城ヲ取ル官兵ノ有スルハ唯々纒ニ鎮江及ヒ上海ノ二ノミ洪秀全遂ニ上海ニ迫ル曾國藩李鴻章ト共ニ全軍ヲ督シ英國士官「ごるどん」ヲ用ヒ都督トナシ劉銘傳玉麟

(210)

英佛同盟軍遠征ノ原因ヲ問フ

曾國荃ノ諸將ト前後賊ヲ破リ穆宗帝ノ同治三年漸ク金陵ヲ平ケ洪秀全自殺シソノ間十有五年ニシテ亂コ、ニ平ラク洪秀全ハ豪邁才學アリ幼ニシテ孤トナリ四方ニ遊學シ同志ヲ結合シ始メテ亂ヲナセリ

文宗帝ノ時洪秀全ノ亂廣東ニ及フヤ英商機ニ乘シ大ニ利セント欲シ船舶ノ出入ヲ擯ニシ支那商船ニ英國ノ旗章ヲ掲ケ商ヲナスコレヲ以テ支那ノ官吏其船舶ヲ追捕シ英ノ旗章ヲ撤去ス然ルニ英領事損害ヲ償ハソフヲ求メシモ府吏輕視シテ顧ミス又々米國軍艦支那砲台ヨリ砲撃セラレコ、ニ於テ英國ハ佛露及ヒ合衆國ヲ誘ヒ同盟シテ討ツ

(211)

英佛同盟軍遠征結果如何

英國ハ佛露 合衆國ト同盟シソノ軍六千人向フ所敵ナク長驅北京ニ逼リ帝及ヒ皇妃諸王共ニ熱河ニ避ケ恭親王ヲシテ和ヲ議セシメ償金一千二百萬兩ト牛莊 登州 台灣第七港ヲ開キ和ヲ結ヘリ



(212) 日本帝國ノ台灣征討ノ原因及ヒ其概況如何

初メ日本備中及ヒ琉球ノ民台灣ニ漂流ス台灣土蕃コレヲ殺害スコ、ニ於テ日本帝國其ノ處分ヲ清國ニ談判ス李鴻章コレニ對フルニ台灣東部ハ清國化外ノ民ナレハ伐ツト否トハ清國ノ關スル所ニアラストコレヲ以テ日本帝國直ニ問罪ノ師ヲ出ス陸軍中將西郷從道總督タリ一戰シテ牡丹社酋ヲ斬リ武威大ニ振ヒ向フ所風靡シ降者相踵ク清國遠カニ書ヲ遣リ之ヲ拒ム日本肯ンセス兩國ノ間將ニ斃アラントス日本帝國辦理大臣大久保利通ヲ遣ハシ議セシム決スルナシ英國公使「ラザフォード」氏調停大ニカム清遂ニ償金五十万兩ヲ納レ事平ラケ

(213) 清佛戰爭ノ原因ヲ問フ

初メ安南 佛蘭西 西班牙ノ三國隙アリ佛蘭西ト聯合シ安南ヲ攻ム清國安南ヲ援ク互ニ勝敗アリ後チ佛軍ハ東京ノ要害タル山西ヲ陷レ北寧城ヲ取ルコ、ニ於テ李鴻章佛蘭西總長「ムー」ルテ「ト和議シ佛軍其ノ約ニヨリ諒山鎮ヲ占領セント進發ス清兵ノ諒山ニアルモノ不意ニ佛軍ヲ襲撃ス佛蘭西政府大ニ不信ヲ責メ二千萬磅ノ償金ヲ要

(214) 清國ニ通商各國ニ公使及ヒ領事ヲ派遣セント建議シタルハ誰ナルカ

求スコレ則チ清佛戰爭ノ原因ナリトス  
大學士直隸總督 北洋通商大臣李鴻章ナリトス

(215) 支那近世紀文學及ヒ宗教ノ景況如何

元朝ハ文學盛隆ナリシニ明ニ至リ又々大ニ發達シ清朝亦々甚タシク獎勵シ文士ニ元朝ノキハ揚惟中 許魯齋 金履祥 范惇 歐陽玄 等明朝ノキニ宋濂 薛瑄 方孝孺 王陽明 洪覺山 等清朝ニ至リ現今洋學經學トヲ以テ最モ名アルハ政事家タル胡林翼 曾國藩 李鴻章 左宗棠 曾國荃 等ト李漁 湯若士 黃承燾 等ノ小説家アリ

又々宗教ハ佛教最モ熾ンニシテ元朝ノキ帝ノ師トナルモノ多クハ僧侶ナリキ明朝亦々佛教ノ勢甚タシク又々回々教モ行ハレ清朝ニ至リ道教 佛教 ラマ教 回々教 天主教 基督教アリテ政府ノ制限ナク自由ニ信仰ス近時最モ熾ンナルハ基督教ニシテ英米二國ノ人熱心ニ布教ニ從事シ佛教稍々衰微ニ赴ケリトカ



支那歴史

(216) 支那現今ノ家屋ノ狀況ヲ問フ

支那ニ於テハ家屋ニ瓦屋 木屋 土居 舟居 穴居ノ五種アリテ元トヨリソノ貧富ニヨリテ然リ穴居ハ山西、陝西ノ地ニ多ク舟居ハ南方ニ多ク舟筏ヲ作りコレニ家居ス凡ソ屋中ニ入レハ中央ニ庭園アルアリテ其周圍ニ各室ヲ建設セリ

(217) 支那現今ノ租税ノ制如何

現今支那ニ於ケル國税ヲ地租 鹽稅 關稅 雜種稅 トシ關稅ニハ内國關稅及ヒ外國關稅ノニアリトス

(218) 支那現今ノ兵制如何

ソノ種類一ナラスト雖モ主ナルモノハ八旗綠旗勇兵ノ三トス八旗綠旗ノ總數ハ凡ソ三十二万余勇兵ハ數十万余又タコノ外ニ六十二万許ノ漢人ヲ以テ編制セル軍アリ海軍ハ北洋水師 南洋水師 廣東水師 福建水師ノ四部トシ近時兵制ヲ改良シ歐式ニヨルモノ多シトス

受檢必携 支那歴史問答終

全 明治廿五年七月十五日印刷  
年七月二十日出版



著作者 尾 關 春 三

福岡縣筑後國久留米市田町 三十八番地

京都市上京區寺町通二條上ル 妙滿寺前町十番戶

發行者 河 合 卯 之 助

印刷者 瀨 戶 清 次 郎

大阪市西區鞆下通壹丁目四十八番屋敷



各府縣大發賣所

東京日本橋區通一丁目	全	大倉孫兵衛	淺見文昌堂
全區大傳馬町二丁目	全	大草松榮堂	大橋甚吾
全 神田區葛神保町	全	三省堂	中田書店
全 神田區表神保町	全	開新堂	雲根堂
全 神田區表神保町	全	富山房	池善平
全 神田區今川小路	全	金刺源次	岡崎與兵衛
全 神田區表神保町	全	中西屋書店	岡崎左喜助
全 神田區小川町	全	日進堂	品川為吉
大阪備後町四丁目	全	梅原龜七	長瀨次郎
全 北久太郎町四丁目	全	吉岡平助	積善館支店
全 南久安寺町四丁目	全	柳原喜兵衛	坂井萬吉
全 本町四丁目	全	前川善兵衛	吉田幸兵衛
全 安土寺町四丁目	全	岡島真七	川岡清助
上洲高崎	全	青木嵩山堂	武内彌三郎
上洲前橋	全	煥平堂書店	世羅織治郎
名古屋市本町	全	片野東四郎	松村善助
	全	小澤吉三郎	三木半兵衛
	全	若山大成堂	澤本駒吉
	全	梶田勤助	平井文助
	全		河島九右衛門
	全		勢州津
	全		肥後熊本
	全		筑前博多
	全		阿波德島
	全		薩摩鹿兒島
	全		出雲松江
	全		備前岡山
	全		伊豫國松山
	全		安藝廣島
	全		備後尾ノ道
	全		土佐國高知
	全		紀州和歌山
	全		勢州津

志摩松田舒譯  
訂正 ヲ井ル  
三版 ソン氏  
問題解義并ニ注解附  
合本全七冊壹冊拾五錢郵稅金貳錢

合洋綴本  
上卷 正價 郵稅共金六十錢  
下卷 正價 郵稅共金七十錢

訂正 斯因  
三版 敦氏  
河田清彦譯述  
訂正 ス井ン  
三版 トン氏  
小文典直譯講義  
全一冊 郵稅價 金四十錢

河田清彦譯述  
ス井ン  
トン氏  
第三讀本直譯講義  
全一冊 郵稅價 金三十錢

河田清彦譯述  
ス井ン  
トン氏  
第四讀本直譯講義  
全貳冊 郵稅價 金四十錢

河田清彦譯述  
ス井ン  
トン氏  
第五讀本直譯講義  
全四冊 近刻 金八十錢

河田清彦譯述  
シツケ  
ン氏  
英國史直譯講義  
全一冊 近刻



大代數學講義

卷ノ壹

定價 金四錢

第一編定義ヨリ第六編因數分解法迄紙數百十餘ペーシ  
本書ハ先生ガ自己ノ學識ト多年實地教授上ノ經驗トヲ以テ「スミス」氏大代數學ヲ丁寧ニ講  
述セラレタルモノニシテ理論ノ部分ハ勿論各例題ニ至ル迄一モ洩スヲナク詳解ヲ付シ且ツ  
卷首ニハ數學ヲ修ムル者ノ注意スヘキ件々及ヒ希臘文字ノ讀方等ヲ記セラレタルモノナレ  
ハ諸官立學校ノ入學試驗ニ應セントスルモノ又ハ小學教員驗定試驗ヲ受ケン  
トスルモノ或ハ寒村僻地ニ在リテ良師ニ乏シキガ爲メ其志ヲ空シクスルモノ若シ此  
ノ書ニ依テ代數學ヲ修ムルトキハ面ノアタリ先生ノ講義ヲ聞ク如ク容易ニ妙理ヲ悟ルコト  
ヲ得ヘシ今ヤ第一卷ヲ出版ス世ノ斯ノ學ニ志アル者必ス一讀ヲ要スヘキ珍書ナリ

岩村義一先生講述

大代數學講義

卷ノ二

定價 金貳拾錢  
郵稅 金四錢

第六編因數分解法ノ續キヨリ第八編分數ノ終リ迄以下毎月一冊宛出版

英國麻侯禮原著

日本河田清彦譯述

フレデリック大王論

正價 金廿五錢  
郵稅 金四錢

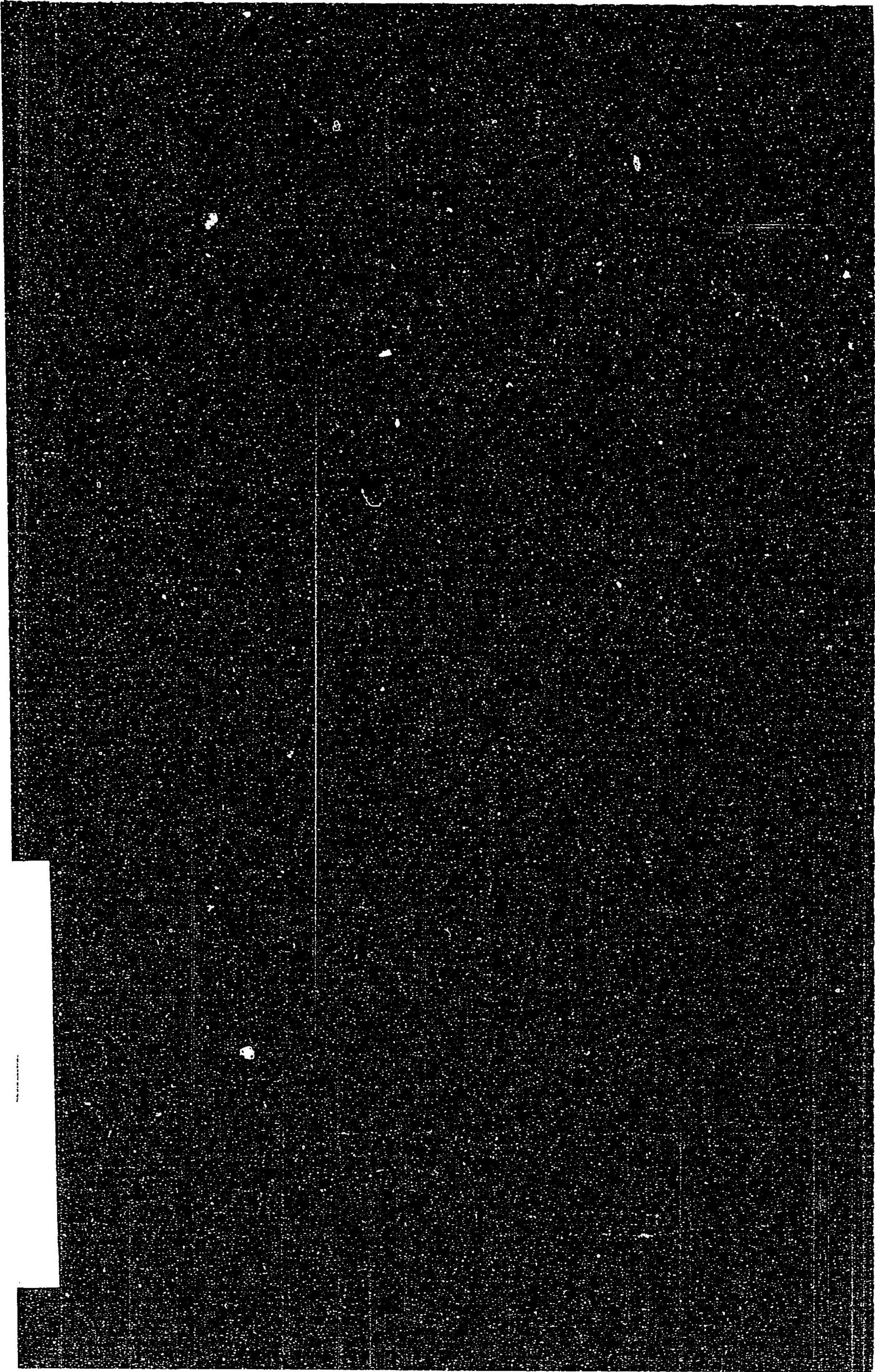
痛快雄壯ナル筆ヲ揮ツテ痛快雄壯ナル英王ノ事蹟ヲ論述シタル麻侯氏ノフレデリック大王論其愛讀趣味スベキ良書ナルヲ  
況ク東西人士ノ知ル所ナリ弊館茲ニ見ル所アリテ著名ナル河田清彦先生ニ譯述ヲ請ヒ這般ノヲ上梓スルノ榮ヲ負フヲ得  
タリ而シテ此譯書原本講究ノ良材タルノミナラス一般人士愛讀ノ道價ナルモノタレハ先ツ一本ヲ講讀シテ味ト給ヘ

發行所

京都寺町通  
二條下

河合文港堂







特50

927

受驗  
必携 支那歴史問答

国立国会図書館

049572-000-5

特50-927

支那歴史問答 (受驗必携)

尾関 春三 / 著

M25

BEM-0265

